

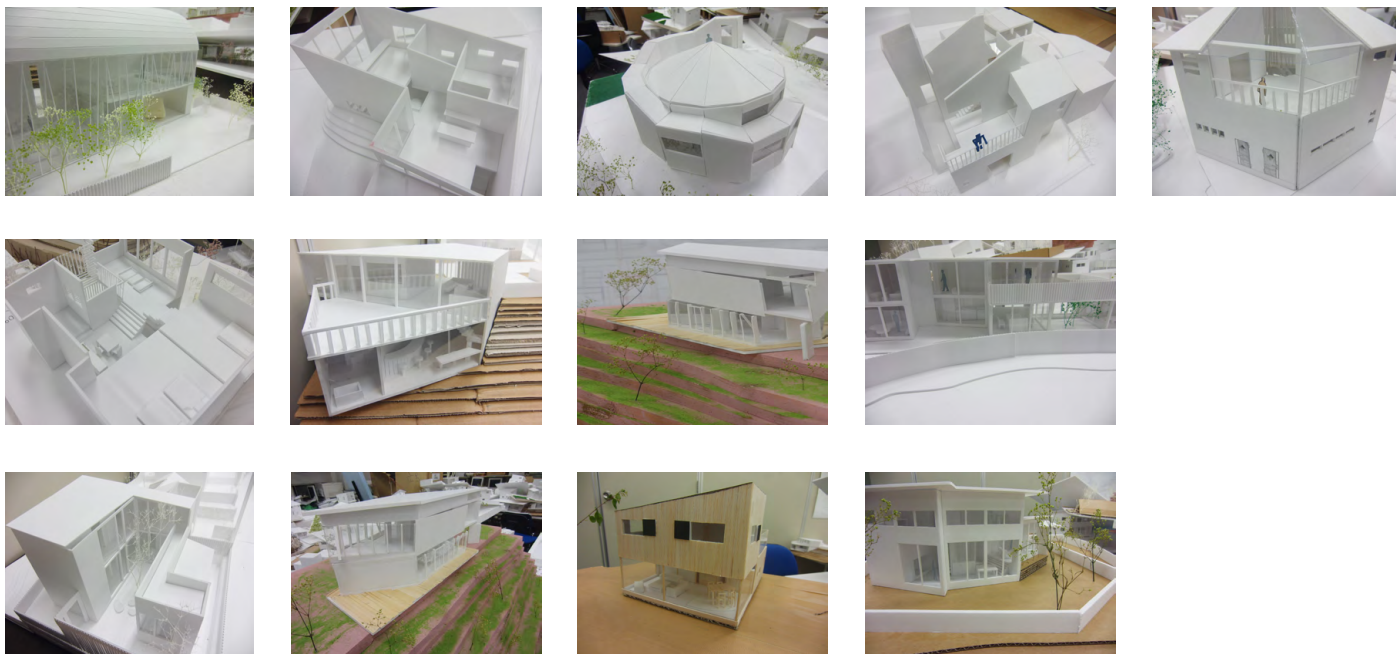
近畿大学工学部建築学科 作品集

Department of Architecture, Faculty of Engineering, Kinki University

CONTENTS

1	2年後期 建築設計演習Ⅰ	...	3
	01 「将来の自邸」		
	02 「事務所ビル」		
2	3年前期 建築設計演習Ⅱ	...	4
	01 「現代美術のための美術館」		
	02 「集合住宅」		
3	3年後期 建築設計演習Ⅲ	...	6
	01 「小学校」		
	02 「複合施設」		
	03 「集中演習 with エジンバラ芸術大学」		
	04 「集中演習 with タマサート大学」		
4	卒業設計	...	12
	01 みちの建築 教育施設と地域の融合	宇都宮 正成	
	02 Spin ～現代から過去へ～	中村 元就	
	03 Across 一人・時・建物で生まれる空間ー	大原 晃一	
	04 Expression of a bookshelf	杉森 裕子	
	05 ウズマキ	小阪 健	
	06 庁舎建築 ～柔軟な執務空間と市民スペース～	井手元 秀樹	
	07 保育と介護の複合施設 ～世代を超えた交流～	又野 憲	
	08 NOT FLAT ～遊びを見つけ出すこども園～	志茂 卓哉	
	09 Floating Airport ～新しい空港のカタチ～	市川 亮太	
	10 cultivate island ～ものづくりネットワーク～	多田 敏晃	
	11 渗む生活、繋がる交流	水下 竜也	
	12 私は誰にも会いたくない。～閉鎖的な開放感～	宇治川 和樹	
	13 IMCOMPLETENESS ～無秩序の秩序～	小川 健成	
	14 登山住宅	植木 優行	
	15 再考の余地／底力の姿	三國 陽一	
	16 fitting ーひく ひるがる つながるー	塩川 正人	
	17 ー今、商店は意志を持ち、そして動くー	山本 真司	
	18 こどもと世界をつなぐかべ	東 大典	
	19 つながり ～町へと溶け込む駅～	中尾 恭子	
	20 道で繋がる人とかわ ー水の都ひろしまで、川と共に生きるー	佐藤 真美	
	21 緑園ミドリカコム ー 21世紀の農業の風景ー	石川 佳奈	
5	修士設計	...	34
	01 町家アパートメント ー京町屋をモデルとした集合住宅の考察ー	森原 直樹	
	02 ジェンガ	野島 将	
	03 広島と軸線 ー軸線の魅力と問題ー	青木 史晃	
	04 まちにごめく建築 ー機能と形態の変化変化可能な空間設計の提案ー	豊後 亜梨沙	
	05 移りゆく住処 ー ever changing house ー		中平 祐子
6	設計コンペ	...	45
	日本建築学会設計競技 ー時を編む建築ー		
	日本建築学会近畿支部設計競技		
	ーコンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計ー		
	JACS 住宅設計コンペ ー環境住宅「光と風」ー		
	リノベーション学生アイデアコンペ 五三会建築設計競技 すまコンコーディネーターコンテスト		
	朝日リビングマンションエクステリアデザインコンテスト キッチン空間アイデアコンテスト		

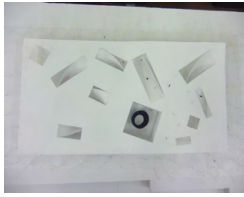
 works 2nd 3rd



将来の自邸

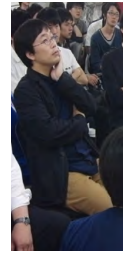
オフィスビル





現代美術のための美術館

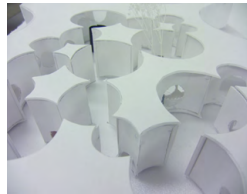
中濱 早紀 / nakahama saki



特別講師 建築家 新関 謙一郎



間瀬 敬太郎 / mase keitaro



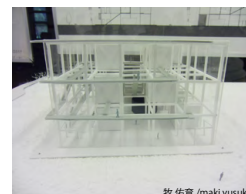
寺脇 ひとかり / terawaki hikari



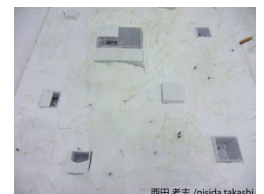
館 沙織理 / tanaka rinko



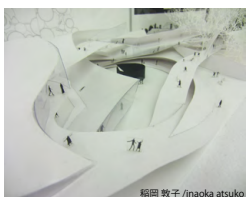
南波 長祐 / nanbata shosuke



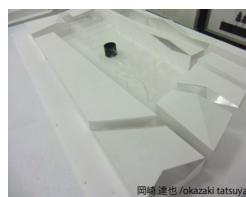
牧 佑真 / maki yusuke



西田 孝志 / nisida takashi



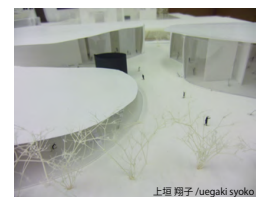
稲岡 敦子 / inaoka atsuko



岡崎 達也 / okazaki tatsuya



二口 俊介 / hutakuchiya syunsuke



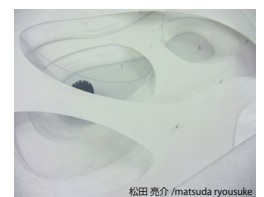
上埜 翔子 / uegaki syoko



田内 希美 / tanai nozomi



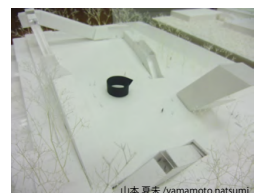
杉本 由衣 / sugimoto yui



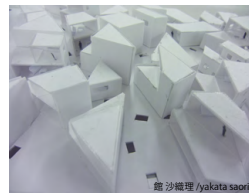
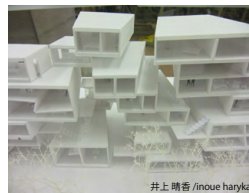
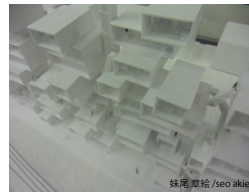
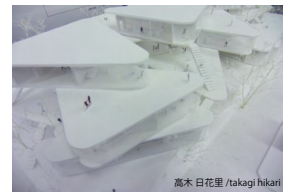
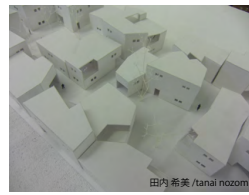
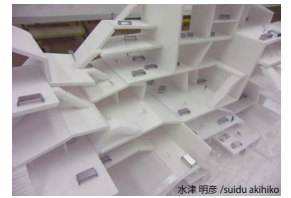
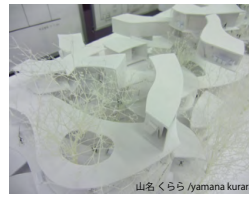
松田 亮介 / matsuda ryosuke



友中 雄一 / tomonaka yuichi



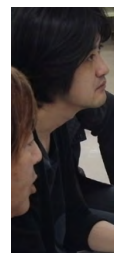
山本 夏未 / yamamoto natsumi



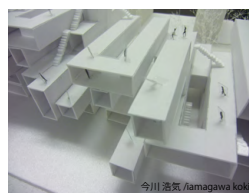
集合住宅



稲岡 敦子 / inaoka atsuko

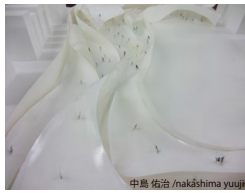


特別講師 建築家 川辺直哉

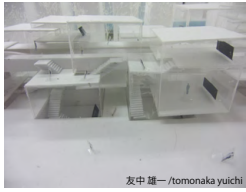




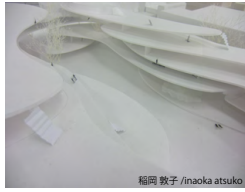
高橋 憲太 / takahashi keita



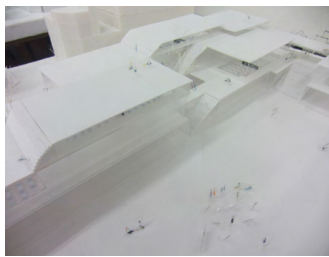
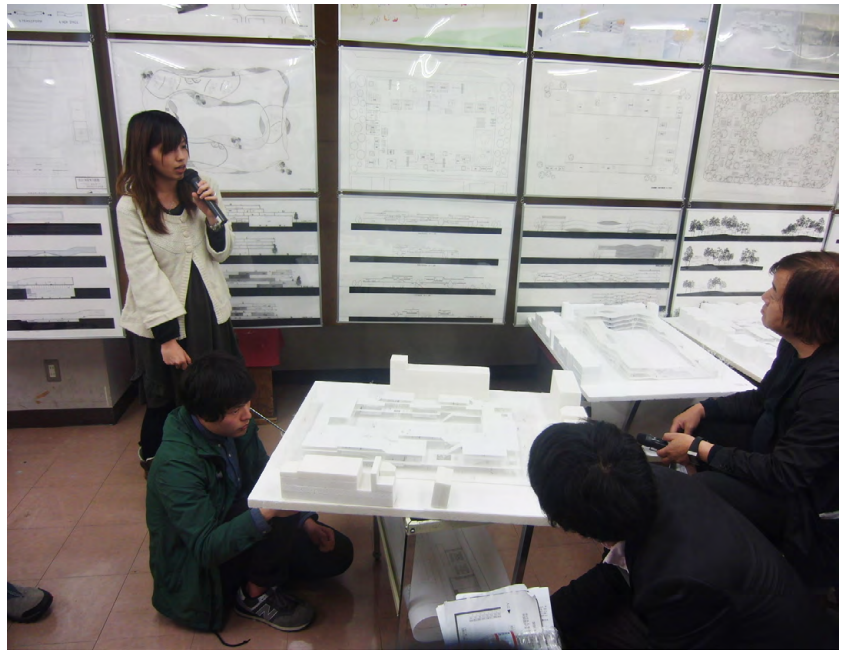
中島 佑治 / nakashima yusui



友中 雄一 / tomonaka yuichi



稲岡 敦子 / inaoka atsuko

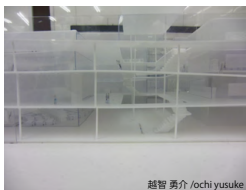


小学校

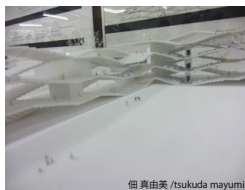
田内 希美 / tanai nozomi



特別講師 建築家 禿真哉



越智 勇介 / ochi yusuke



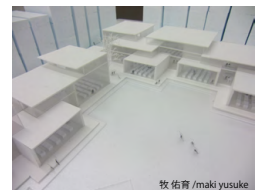
徳 真由美 / tsukuda mayumi



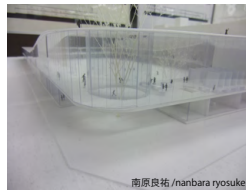
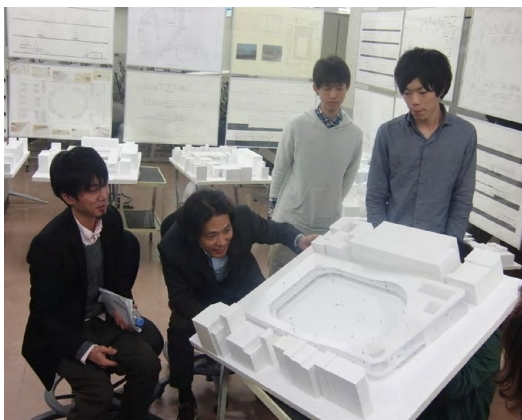
水津 明彦 / suidu akihiko



田村 祐輔 / tamura yusuke



牧 佑育 / maki yusuke



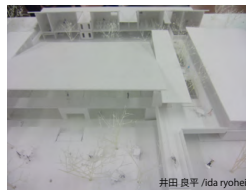
南原 良祐 / nanbara ryosuke



山本 拓哉 / yamamoto takuya



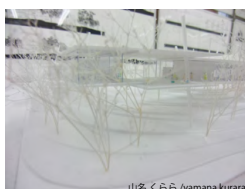
山本 拓哉 / yamamoto takuya



井田 良平 / ida ryohai



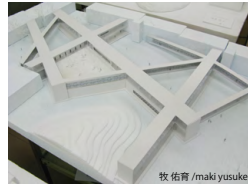
藤井 友里絵 / hujii yurie



山名 くらら / yamana kurara



上垣 翔子 / aegaki syoko

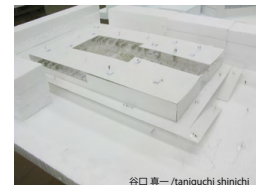
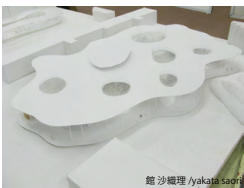
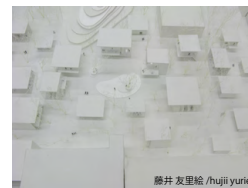


メディアセンター

田内 希美 / tanai nozomi

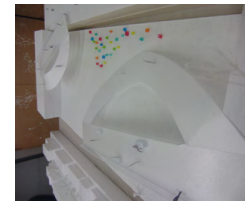
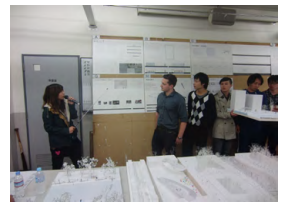
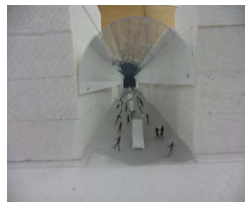
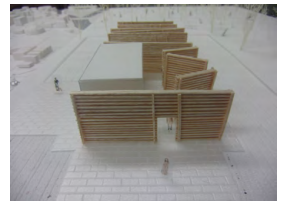
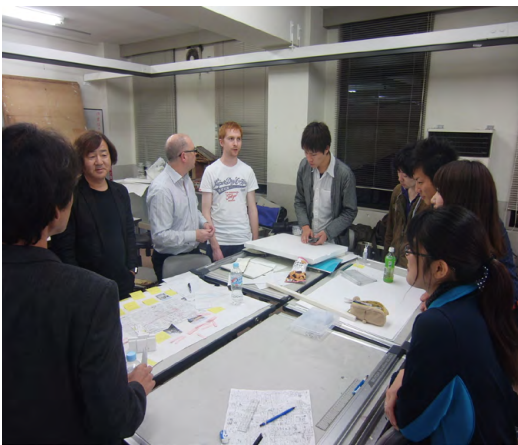
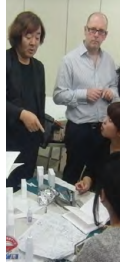
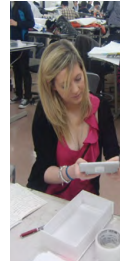


特別講師 建築家 山下保博



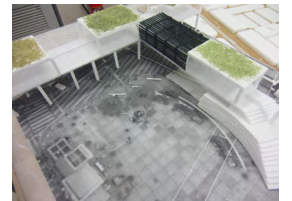
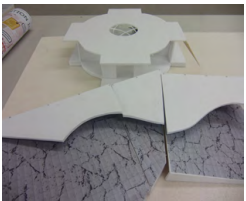
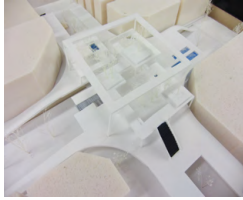
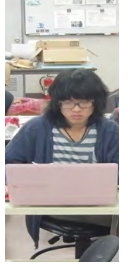
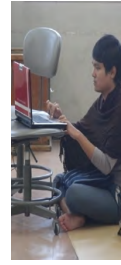


集中演習 with Edinburgh

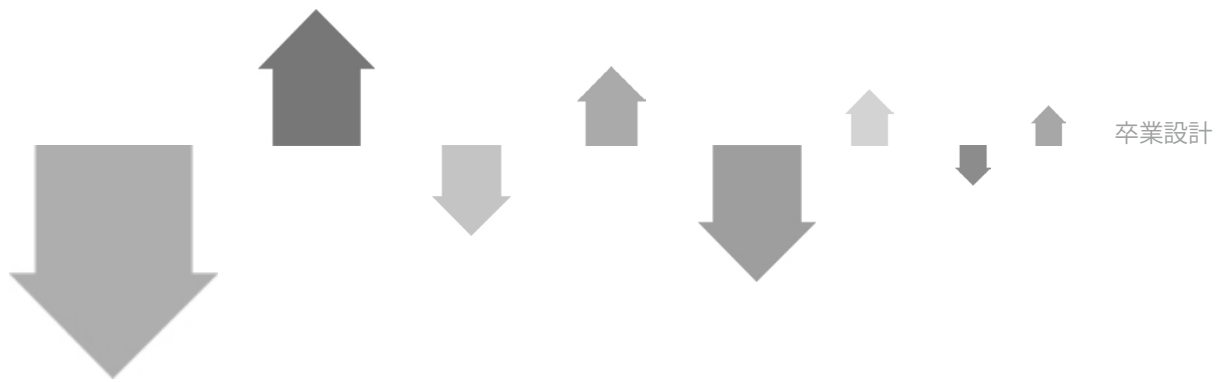




集中演習 with Thammasat





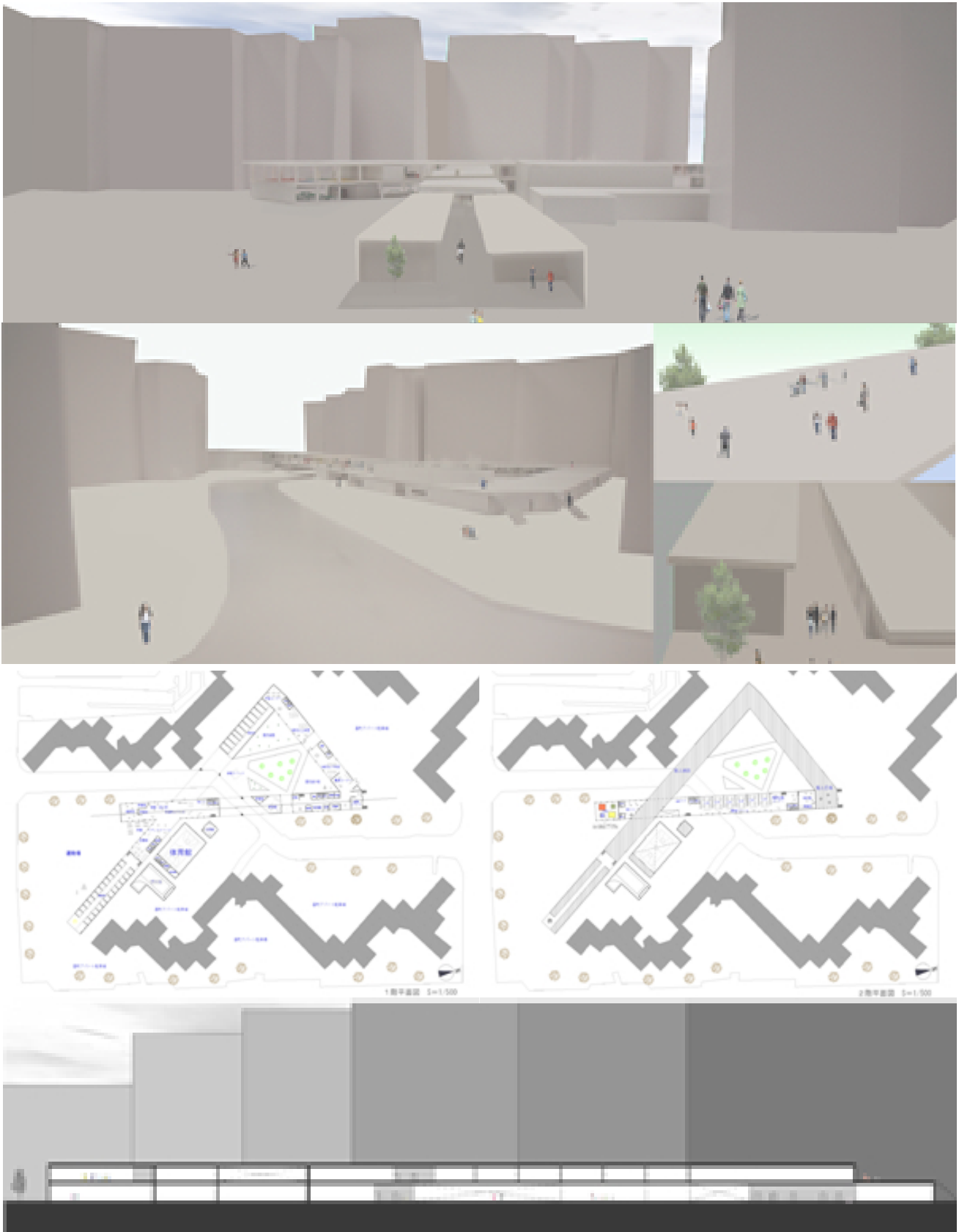




01 みちの建築 - 教育施設と地域との融合 -

宇都宮 正成
utsunomiya masamiti
建築計画研究室

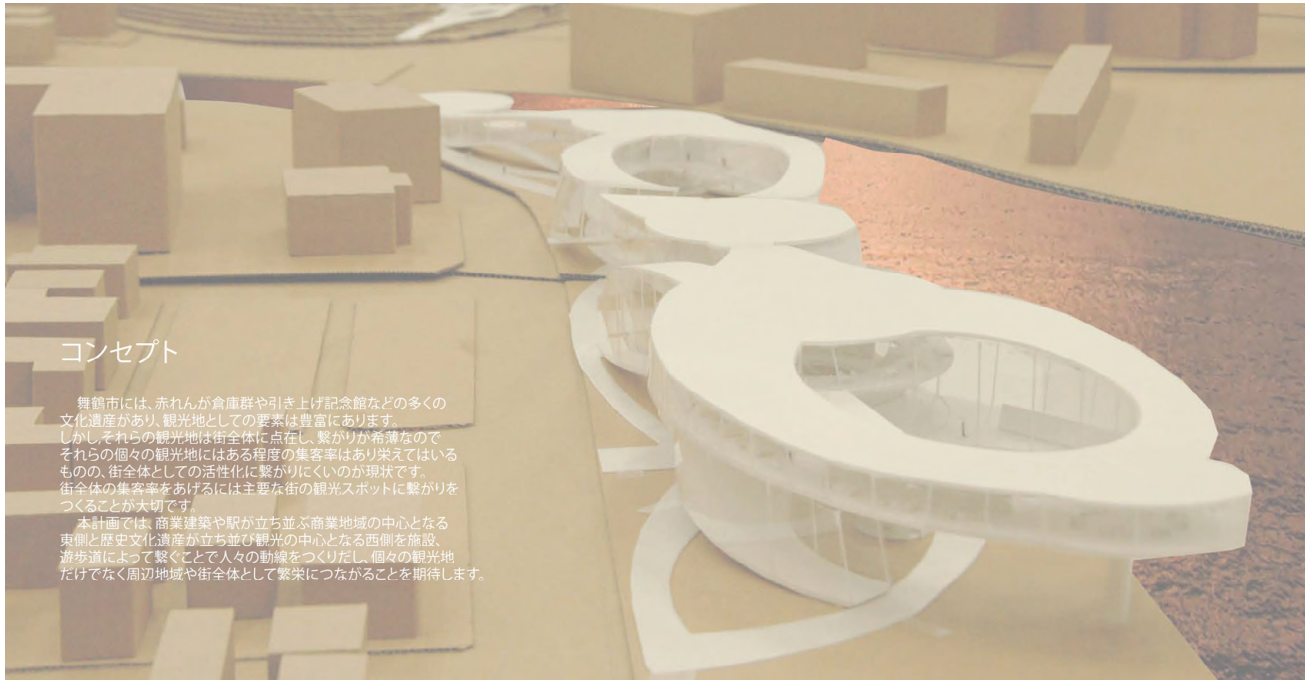
多くの初等教育施設は地域の中に立地し中心的な存在であった。しかし現在、物理的・精神的の両面で問題を抱えており、地域と融合できないで孤立しながら閉鎖的な空間になっている。これでは地域全体で子育てをするという意識も生まれにくくなる。本計画は、地域においてこれまで、基幹的施設として存在し住民の行動との関わりが強い“道”を利用することにより、教育施設を地域に融けこんだ空間として創出することをめざした提案である。





中村 元成
nakamura motonari
空間創造研究室

舞鶴市には、赤れんが倉庫群や引き上げ記念館などの多くの文化遺産があり、観光地としての要素は豊富にあります。しかし、それらの観光地は街全体に点在し、全体としての活性化に繋がりにくいのが現状です。本計画では、商業建築が立ち並ぶ商業地区である東側と歴史文化遺産が立ち並び観光の中心となる西側を施設、遊歩道によって繋ぎ人々の動線をつくりだすことで、個々の観光地だけでなく周辺地域や街全体として活性化につながることを期待します。



コンセプト

舞鶴市には、赤れんが倉庫群や引き上げ記念館などの多くの文化遺産があり、観光地としての要素は豊富にあります。しかし、それらの観光地は街全体に点在し、繋がりが希薄なのでそれらの個々の観光地にはある程度の集客率はあるが、街全体としての活性化に繋がりにくいのが現状です。街全体の集客率をあげるには主要な街の観光スポットに繋がりを創ることが大切です。

本計画では、商業建築や駅が立ち並ぶ商業地域の中心となる東側と歴史文化遺産が立ち並び観光の中心となる西側を施設、遊歩道によって繋ぐことで人々の動線をつくりだし、個々の観光地だけでなく周辺地域や街全体として繁栄につながることを期待します。

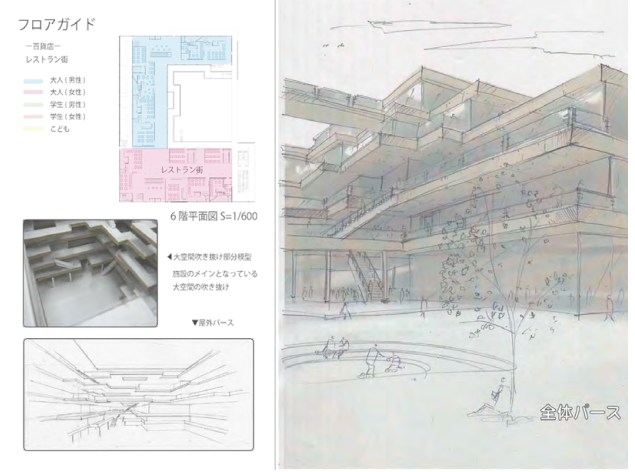
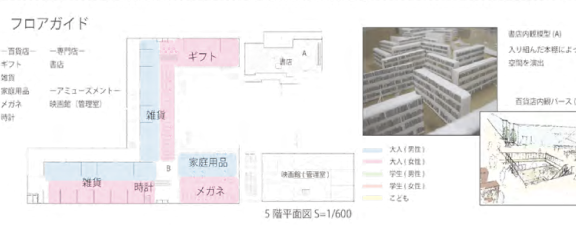
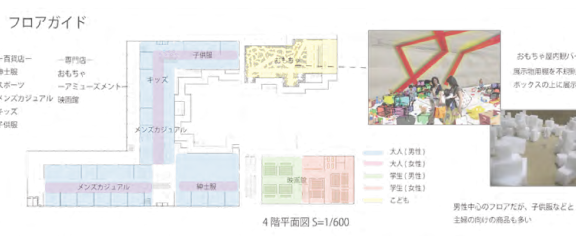
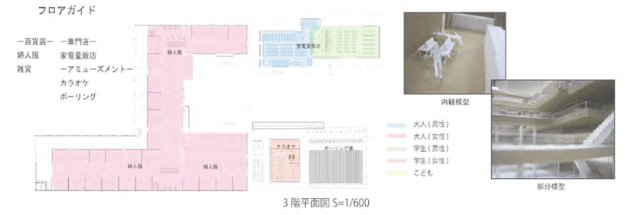
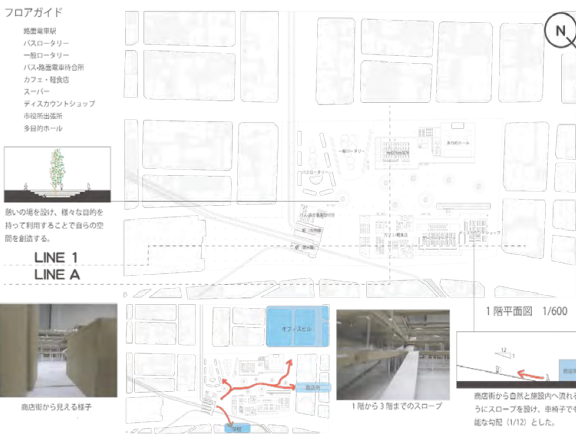
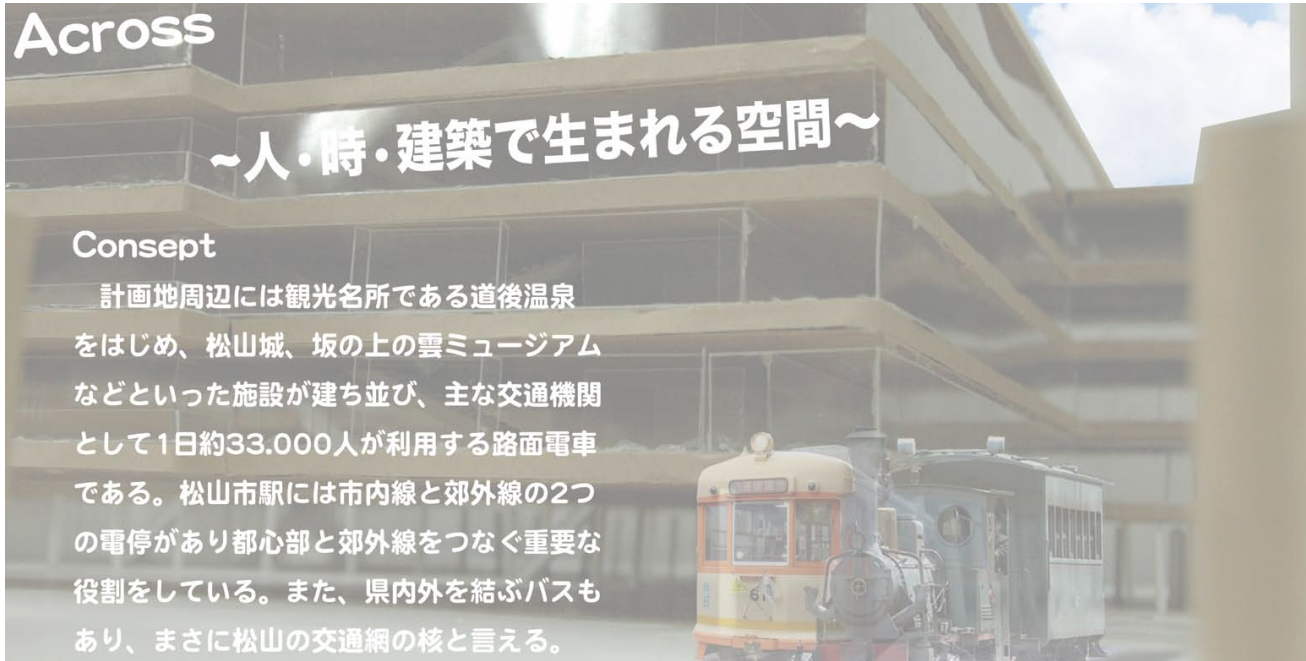




03. Across -人・時・建物で生まれる空間-

大原 晃一
ohara kouichi
空間創造研究室

近年、松山市では大型ショッピングモールなどの普及しつつある中、広大な面積と高い集客力を得る事ができる郊外へと目を向けている。しかし、都心部においては人口や建築物が集中し、交通アクセスも混雑で立地条件も限られている。そこで都心部の多様な建築を利用し、それにおける人の流れを建築とコラボすることで新たな動線や空間が生まれ利用し周囲の建物と街の活性化を図る提案である。



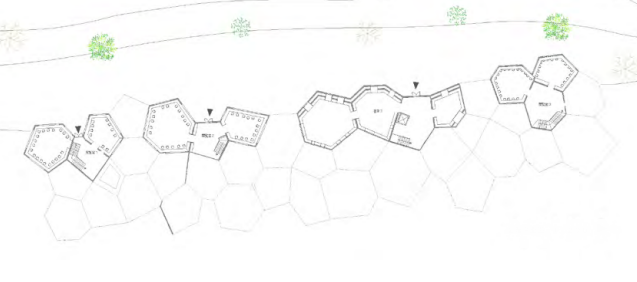
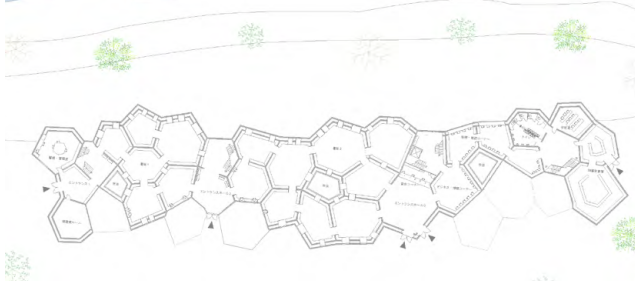
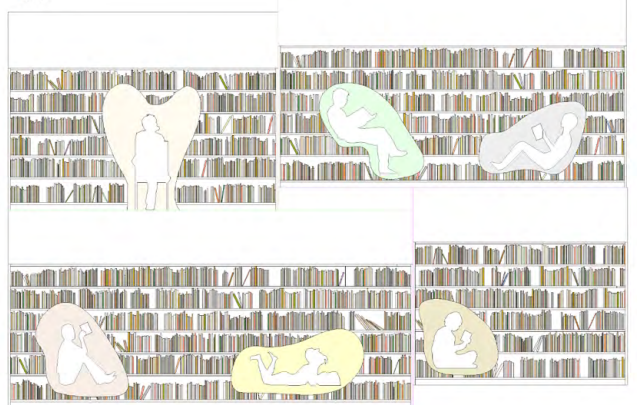
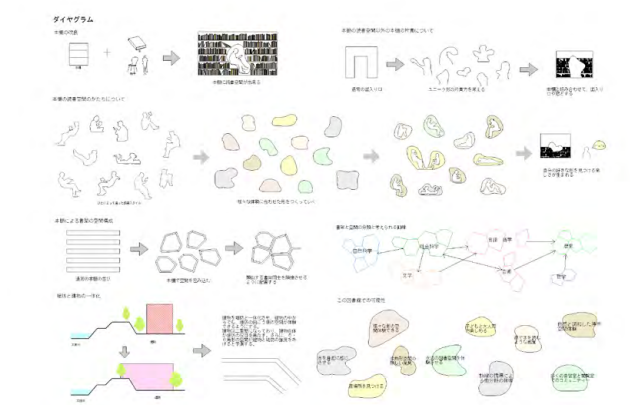


04. Expression of a bookshelf

日本インテリア学会中国、四国支部長賞

杉森 裕子
sugimori yuko
環境設計研究室

現在の図書館は、インターネットの普及や活字離れ、大型図書館の普及等の理由から、図書館機能が衰退しているように思え、さらに、図書館に行く楽しみも減ってきているように感じる。本計画では、行きたくなる図書館、他にはない新しい空間の使い方の図書館を考える。読書空間の使い方として、本棚に注目し、本棚による新たな空間の形成により、訪れる人が本を探す楽しさや、自分の好きな空間を見つけ、図書館に行く楽しみを見つけてもらえる空間を目指す。

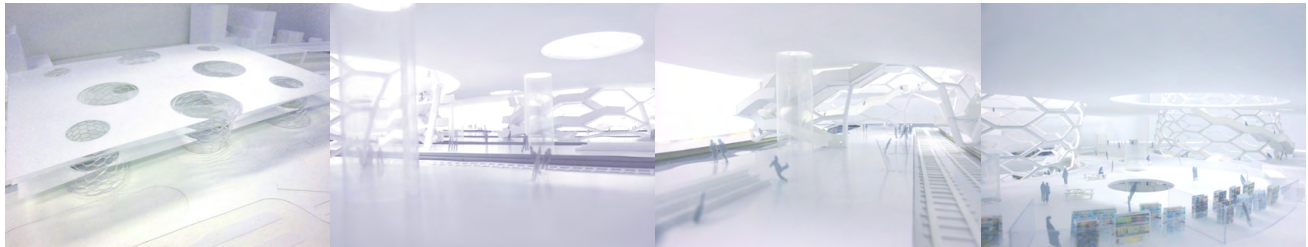




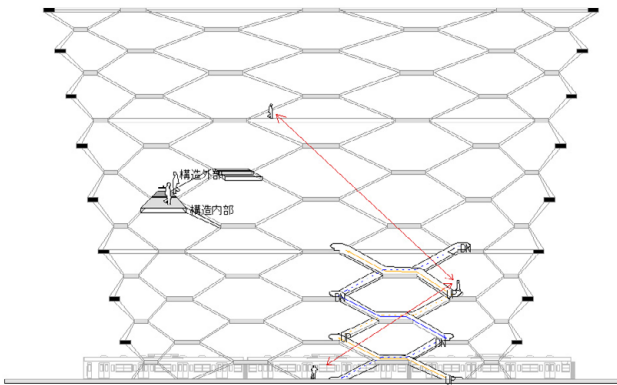
05. ウズマキ

小阪 健
kosaka ken
環境設計研究室

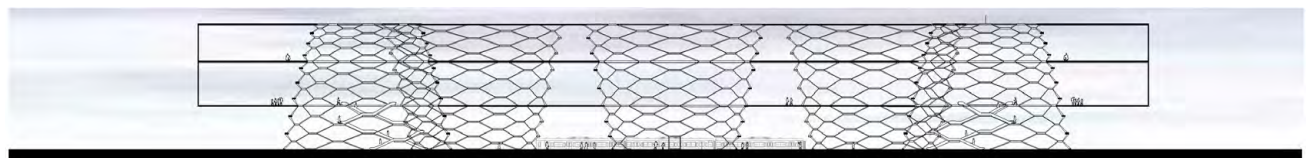
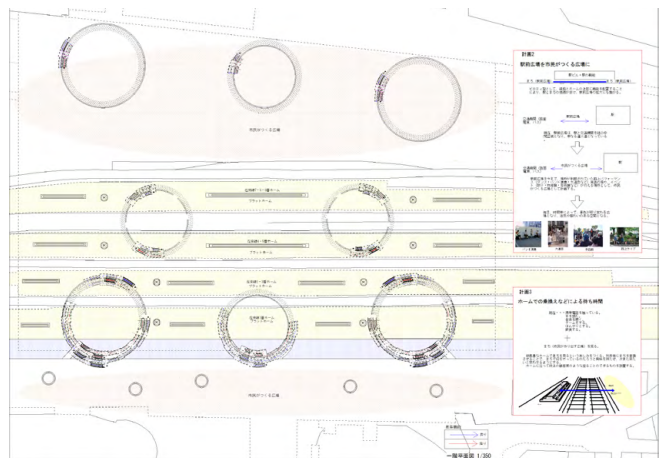
駅ビルは駅とまちの間に壁となり立ちふさがり、駅のホームに降り立っても、駅ビルによって、まちの姿が隠れ、まちに着いたと感じなくなってきている。 反対にまちからも駅という存在が認識され難い、そこで駅とまちに視線の繋がりを持たせることにより、ホームに降り立ったとき、街に着いたと実感でき、胸の鼓動が高鳴るようなまちの玄関とする提案である。



上に広がる動線
人の動き流れが、上からも下からもわかる。



昇降機能において、昇りと下りを別々に分けることにより、昇りと降り人の動きの流れがわかる。それにより、スムーズに行動できるので、混雑は抑へにくくなる。2階で買い物をするときも、駅抜けを通して、ホームでの電車の通る風景・人の流動的な動きなど、上の階にも見ることが出来る。

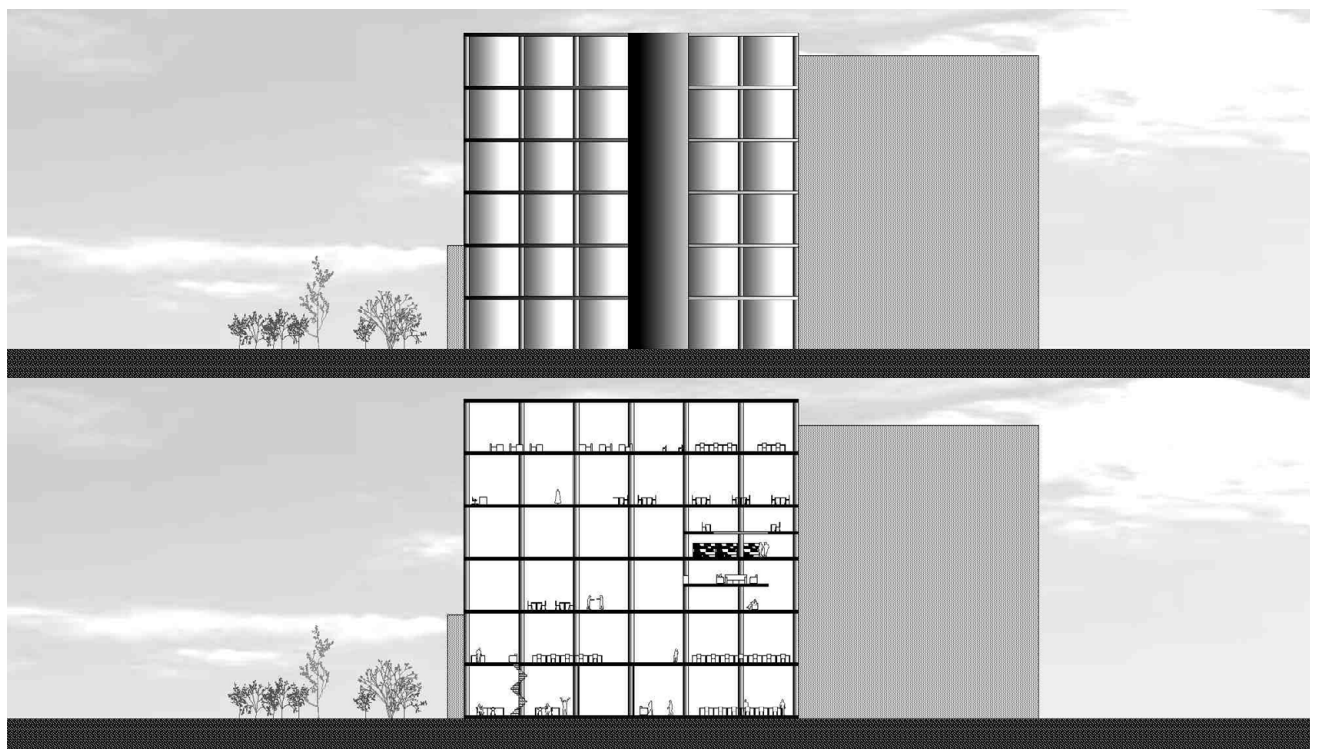
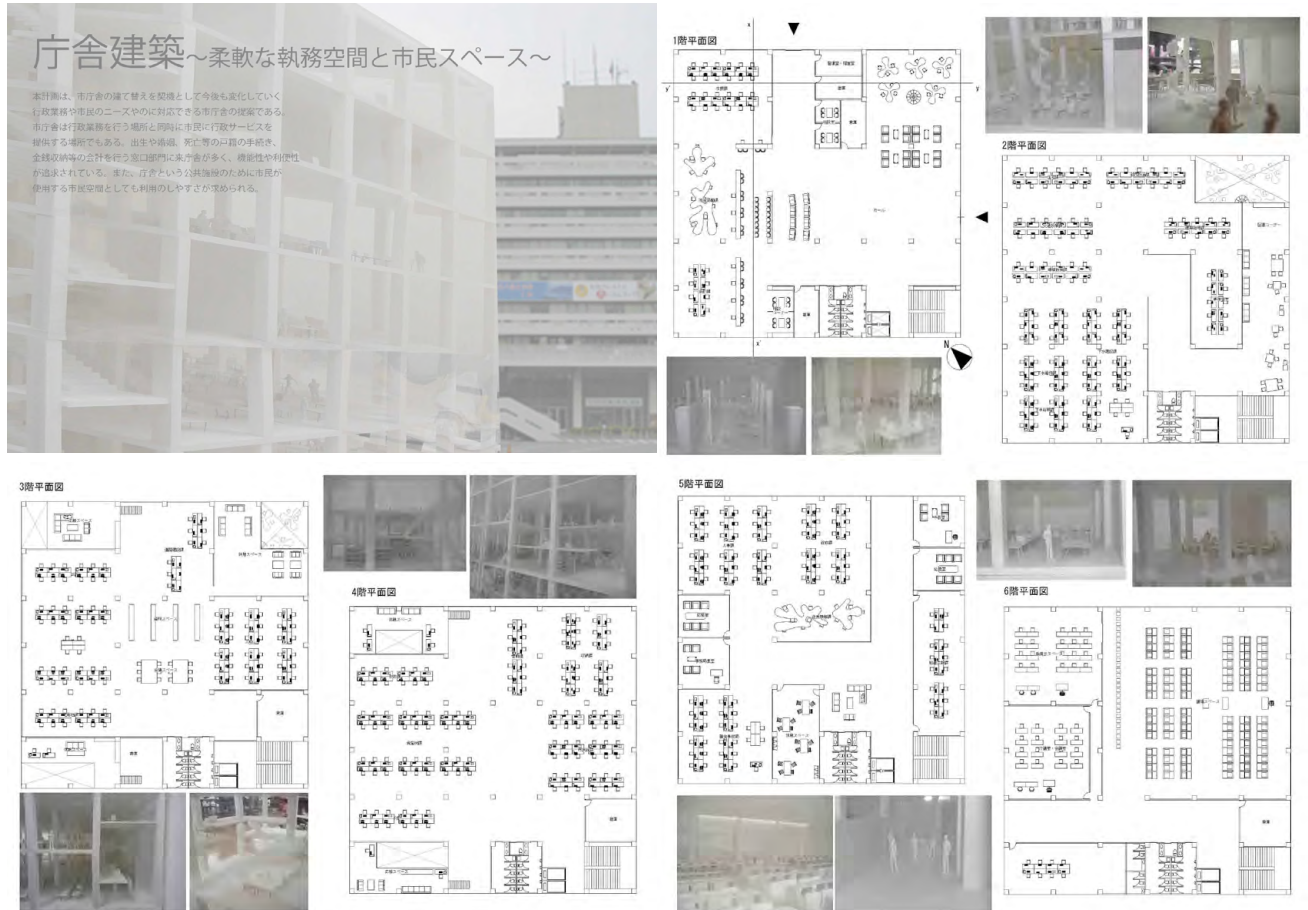




06. 庁舎建築 - 柔軟な執務空間と市民スペース -

井出元 秀樹
idemoto hideki
建築計画研究室

本計画は、市庁舎の建て替えを契機として今後も変化していく行政業務や市民のニーズに対応できる市庁舎の提案である。市庁舎は行政業務を行う場所と同時に市民に行政サービスを提供する場所でもある。出生や婚姻、死亡等の戸籍の手続き、金銭収納等の会計を行う窓口部門に来庁舎が多く、機能性や利便性が追求されている。また、庁舎という公共施設のために市民が使用する市民空間としても利用のしやすさが求められる。

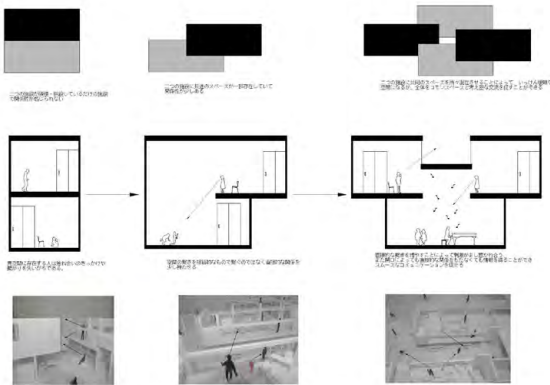




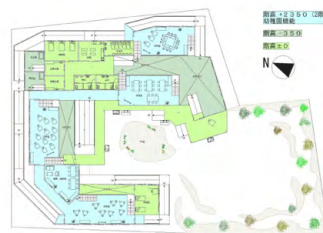
又野 憲
matano tadasi
建築計画研究室

07. 保育と介護の複合施設 - 世代を超えた交流 -

本計画は幼稚園と介護（デイサービス）施設をひとつの建物にまとめ計画するものである。2つの機能を合築することにより相乗効果をねらったものである。ひとつは、子どもの人格形成・成長にとって大切な幼少期において、一方で老人の生きがいにとって大切な若い人との触れ合い。さらに様々な経験を共にすることによって、異なる世代が持っている問題を解消・補完し合う能力に着目し、両者が生きいきとした姿を生み出すことが可能となる空間を提案するものである。



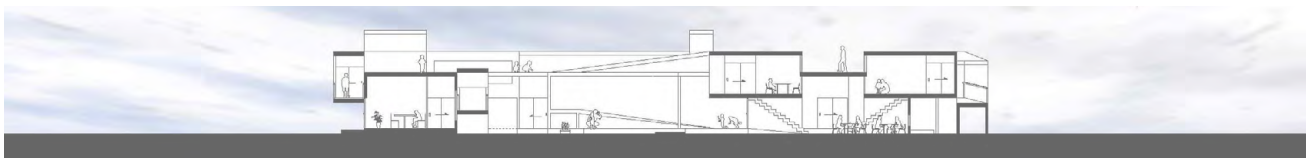
1階平面図 1:100



2階平面図 1:100



屋上平面図 1:100



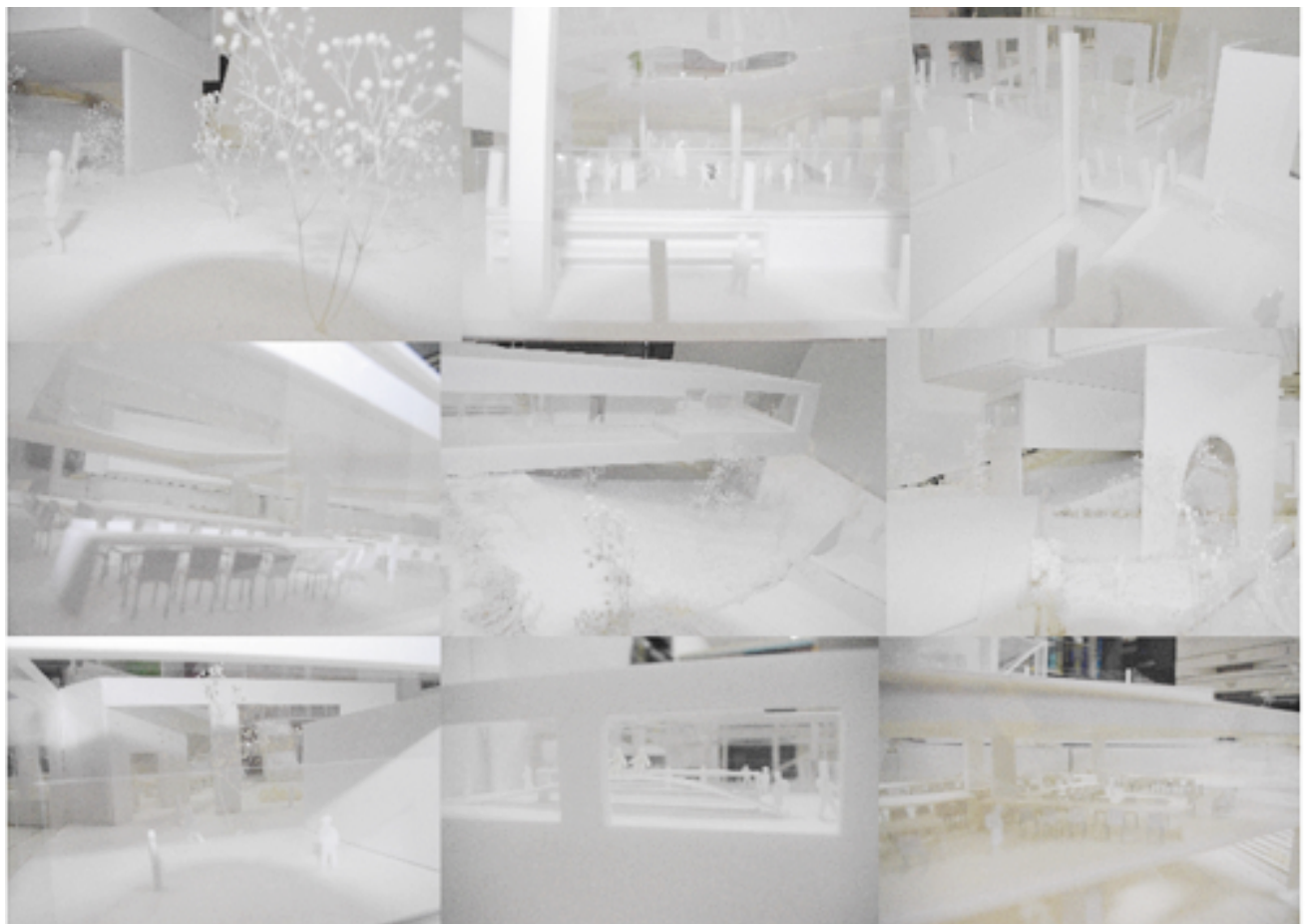


08. NOT FLAT -遊びを見つけ出すこども園-

志茂 卓哉
shimo takuya
建築計画研究室

本計画では、こども園の計画をする。

建築物はもともと人々が利用しやすいように考えて造られている。そのため多くの場合に行動が単純化している。しかし、こどもたちにとっては、そうすることが理想ではなく、いろいろな障害をあたえていった方が色々な発想が生まれやすく、さまざまな体験ができる。周りの環境はこどもの遊びに大きな影響をあたえる。こどもにとって遊びは仕事のようなもので、仲間と様々な経験、工夫、共同活動などをして成長をして

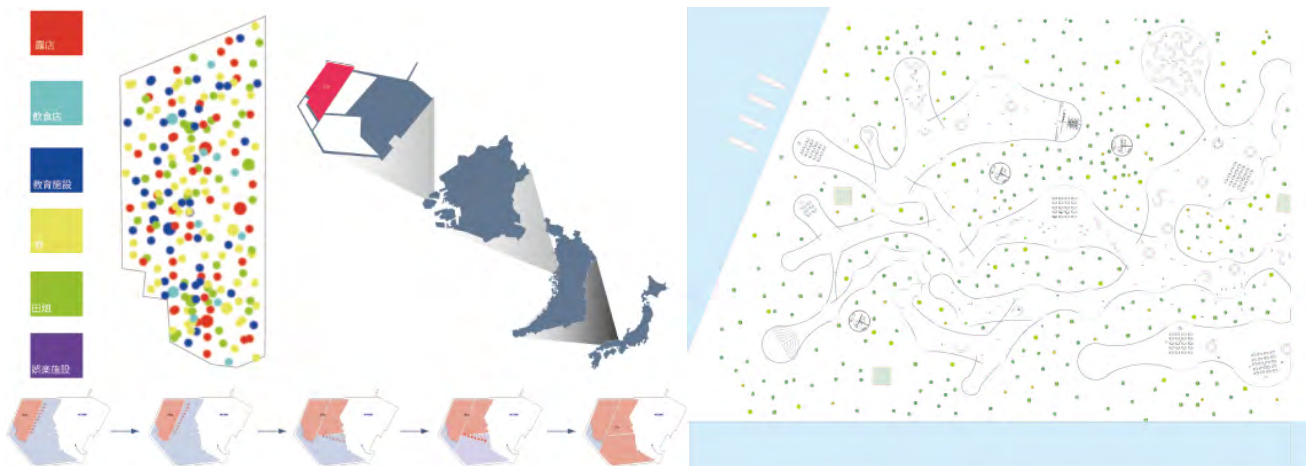




10. cultivate island -ものづくりネットワーク-

多田 敏晃
tada toshiaki
建築歴史研究室

人はものを作る事で人との繋がりを築き伝統や文化が生まれる。そして、時間の経過によって継承するといった行為を経てやがて文明へと変容し生活を獲得する。
本計画は『ものづくり』という文化の種を埋め立て地に植える事で『新しい文化を作る』文化を有する中高大一貫のオルタナティブスクール(寮制度)を計画し、体験型学習を重視し、人や土地、文化等の関係性を再考する提案である。



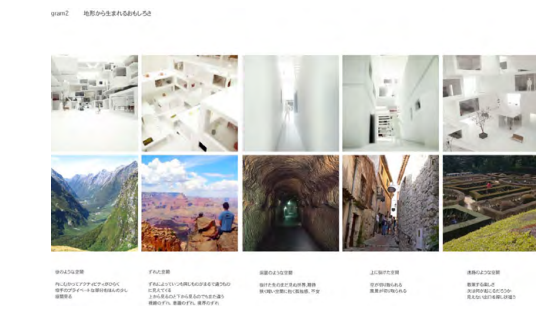
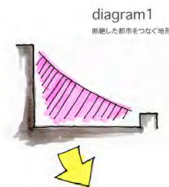
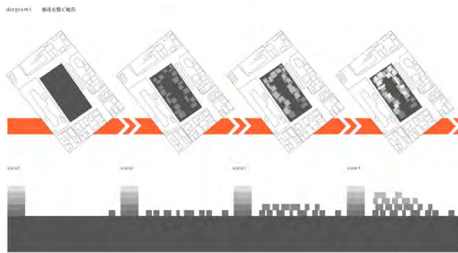
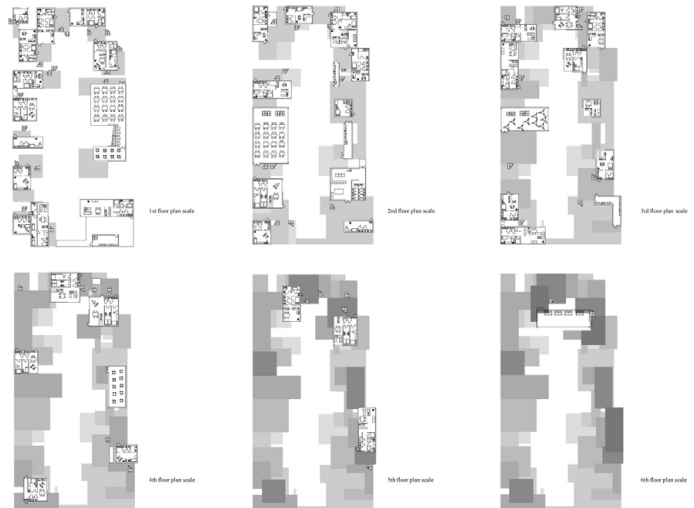


11. 滲む生活、繋がる交流

水田 竜也
mizushita tatsuya
建築歴史研究室

都市計画によって街は急速な発展を続けている。古くからの街並みが残る場所でも、道路が整備され、大型の商業施設やコスト優先のタワーマンションが増えてきている。そのため、古くからの住宅地では高齢化が進み、マンションでは若い世代が増加してきており、旧市民と新市民の交流が薄れてきている。

本計画では薄れつつある交流の輪を繋げる、架け橋となる場を計画するとともに、都市に集まって住むことでうまれる可能性を模索する。

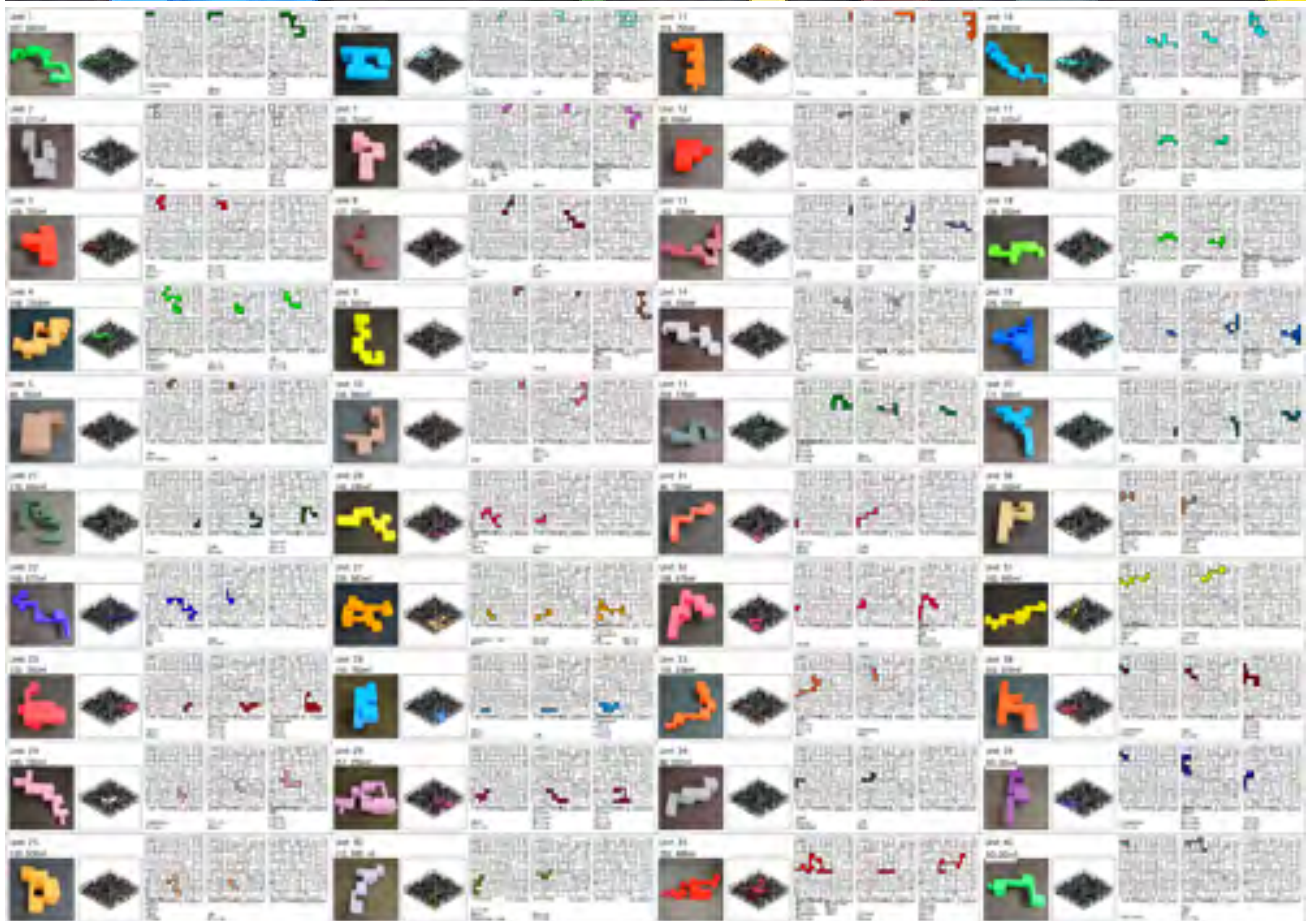




12. わたしは誰にも会いたくない - 閉鎖的な開放感 -

宇治川 和樹
ujigawa kazuki
建築歴史研究室

遊郭とはなんだったのか、かつて多くの人が働き、利用した遊郭も時代の流れによりほぼ消失してしまった。しかし、いまだ建物はそのまま料亭などとして利用されることが多いのには、人がかつて自由恋愛をしていた場所が持つ魅力を人々が求めているからではないだろうか。日本における伝統的な都市的コミュニケーション建築を現代的に変化させ、人々の活動を引き出すことを期待したい。



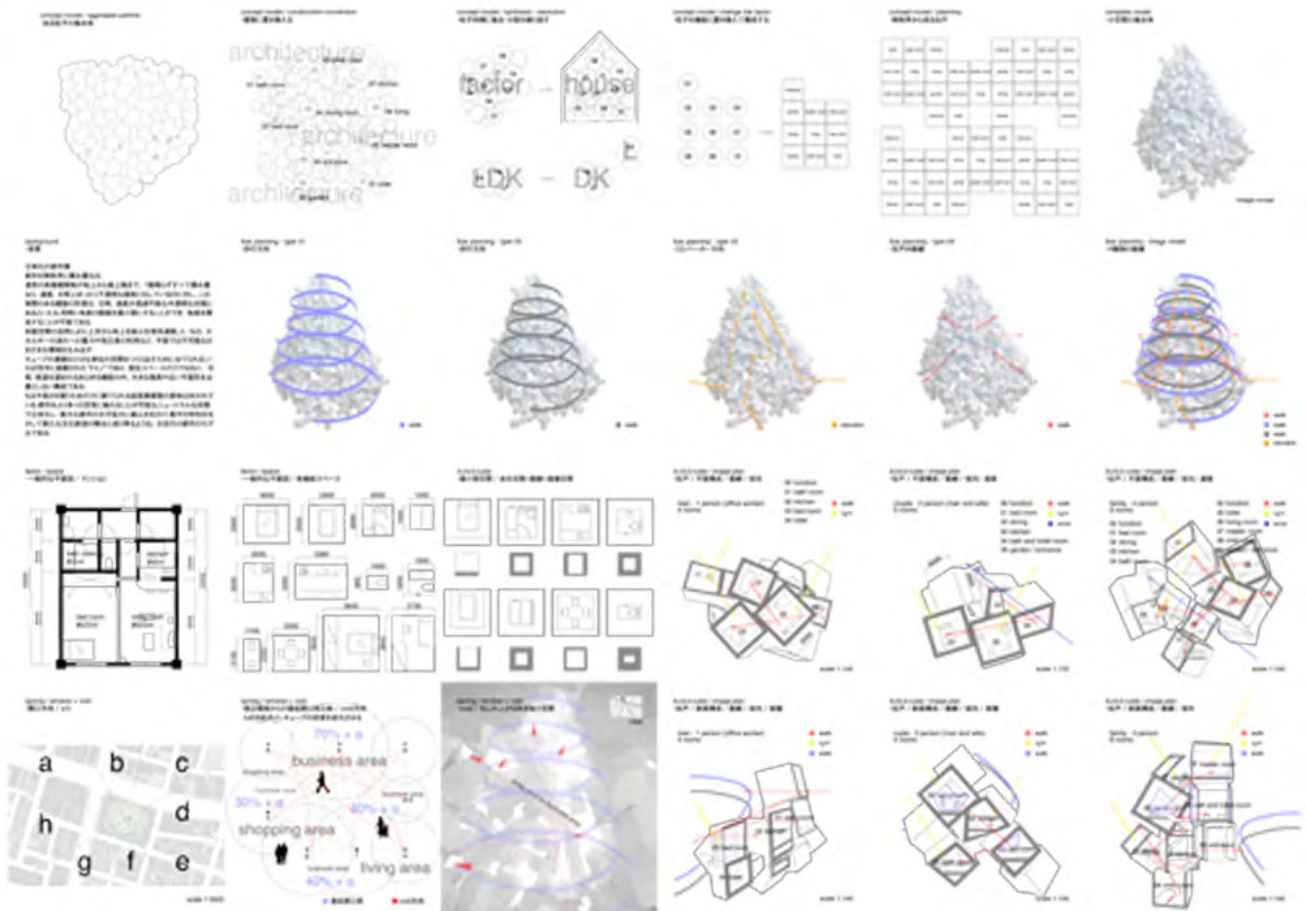


小川 健成
ogawa kensei
建築歴史研究室

13. IMCOMPLETENESS ARCHITECTURE - 無秩序の秩序 -

工学会 3席

本計画は、今日の都市における集合のあり方に疑問を感じ、混沌と生活がされている都市に対して機能を細分化し、再構築することにより、新たな都市のモデルを生み出す。都市を再編することを目的とし、全ての建築をひとつなぎにすることで、人も建築も全てがつながることを期待する。



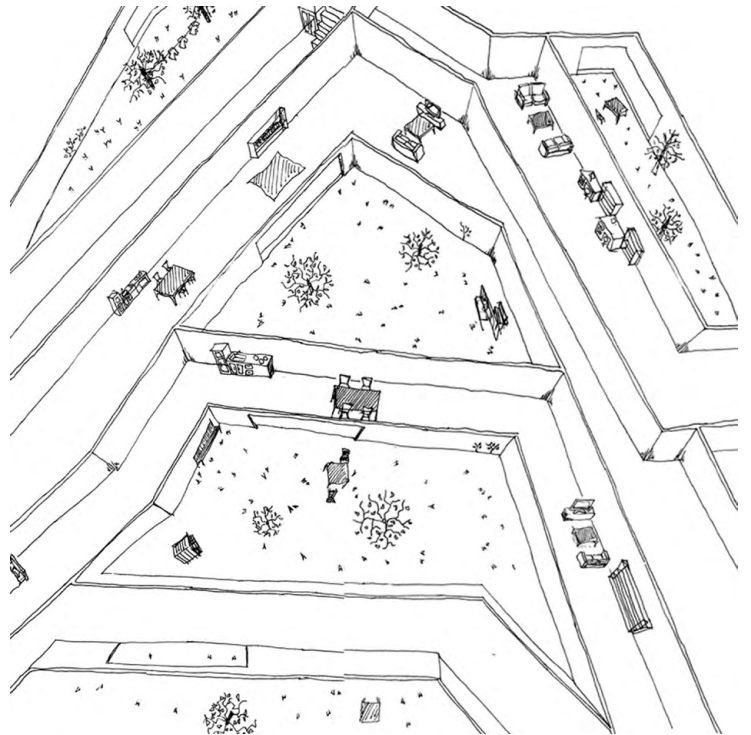


14. 登山住宅

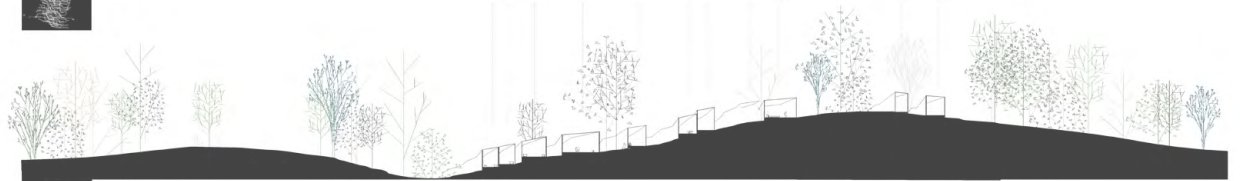
日本建築学会中国支部長賞

植木 優行
ueki masayuki
建築歴史研究室

日本は成長の結果人口収容を求めて生活の場を拡大膨張させた、結果山岳部に手を出し団地は山を切り崩して規則的で無機質な場を作り出している。団地での生活は山の中にあり常に自然の中にある、しかし自然を拒むかのように本来そこにあった生命との共存を全く感じさせない、団地の浸食は元々山に存在していた木、草、地形（土）、空気、動物など多くの山の持つ財産を簡単に壊し、そしてそれらの財産と引き換えに無機質な住環境が山を浸食していくのが当たり前である、住人は身近にある自然には目を向ける事が難しい、人は山に潜むたくさんの魅力をつぶす事により住宅を確保している。多くの森を破壊し地形を操作し山にしか存在しない起伏を平坦にするために山を削り取る、自然とは相成れる事の無い現在の団地整備に対して疑問を感じる。団地のように地形の持つ力を無くす事無く、山岳部の持つ地形、頂上、稜線、谷線などといった地形を最大限に活かし人の生活と自然が融合したような集合住宅を計画する。



section AA 1/250



section BB 1/250



section DD 1/250



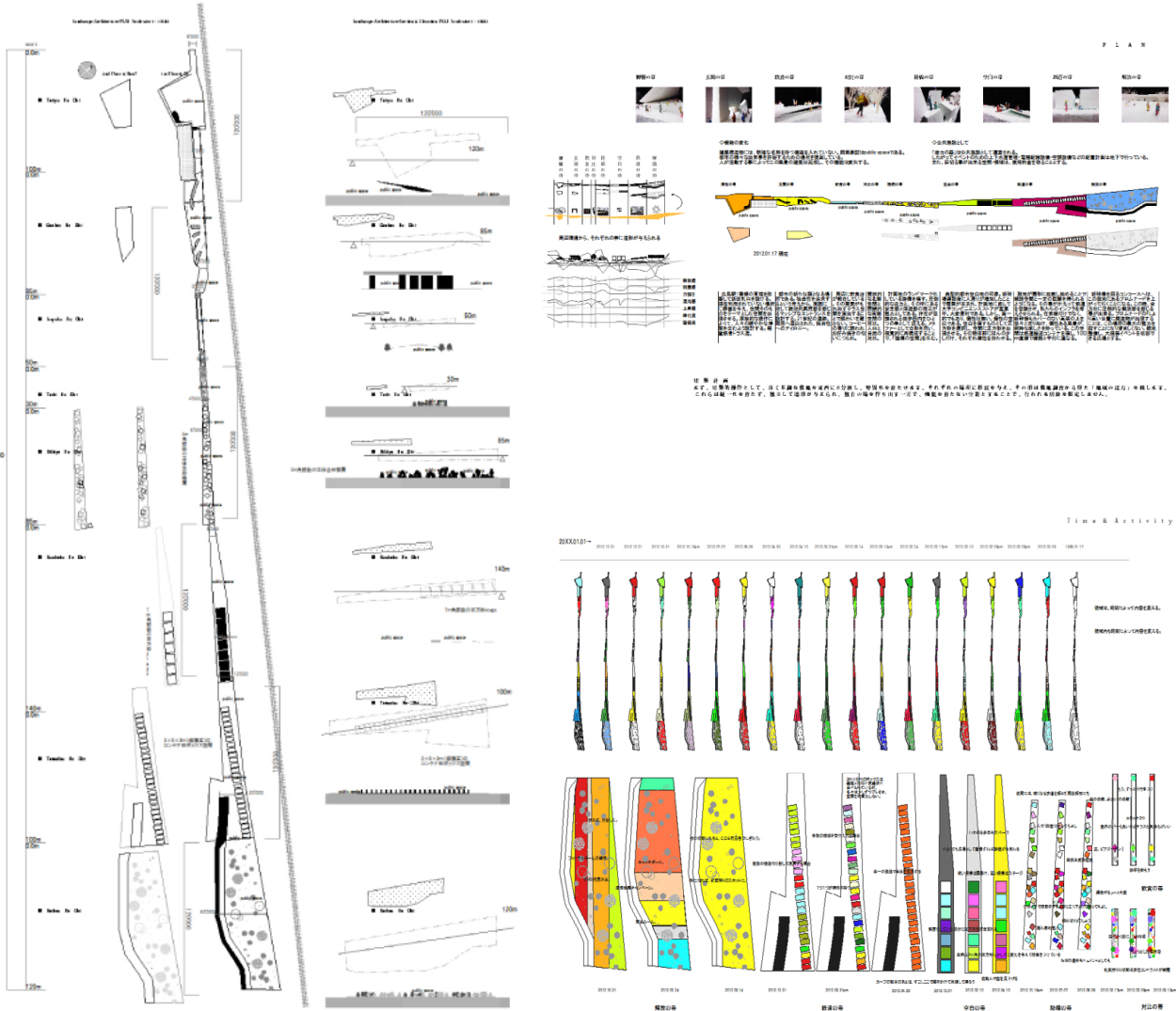


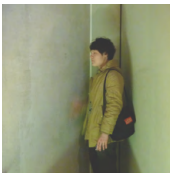
15. 再考の余地／底力の姿

三國 陽一
mikuni youichi
建築意匠研究室

街は、常に自己矛盾を抱えている。都市の発展にとり残された地域は、世の中の変化に必死に食らいつこうとするあまり、そこにある風景とは異質なものを続々と出現させる。これは再開発事業の失敗例である。

本計画では、地域の隠された底力を再び引き戻すための、細長い風景の器を提案する。





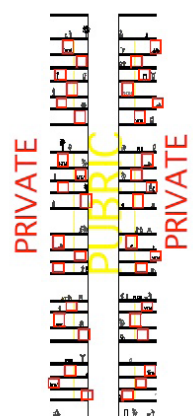
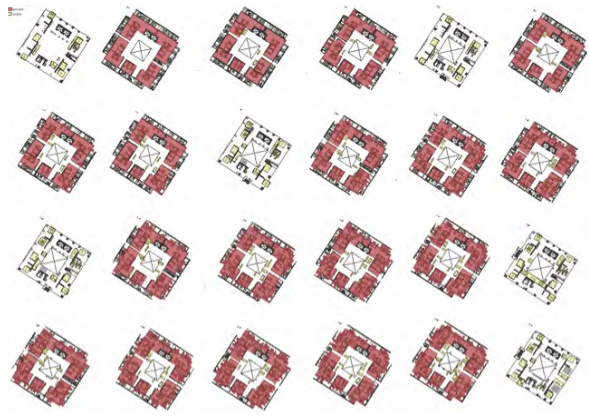
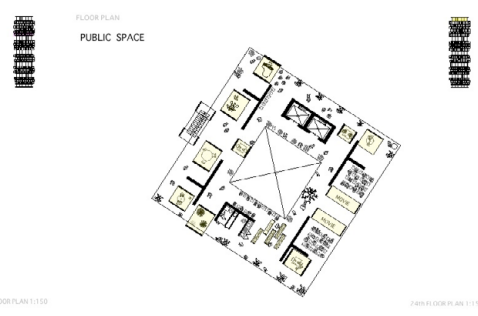
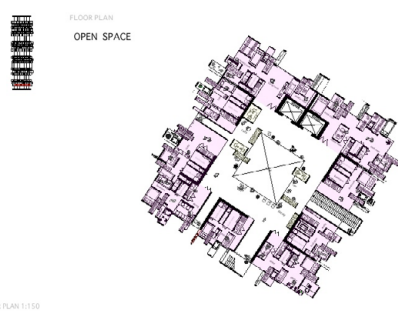
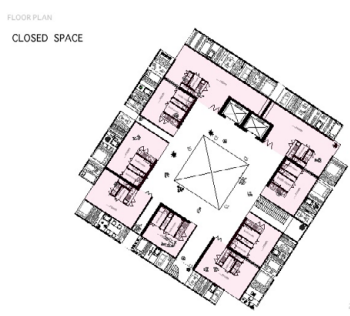
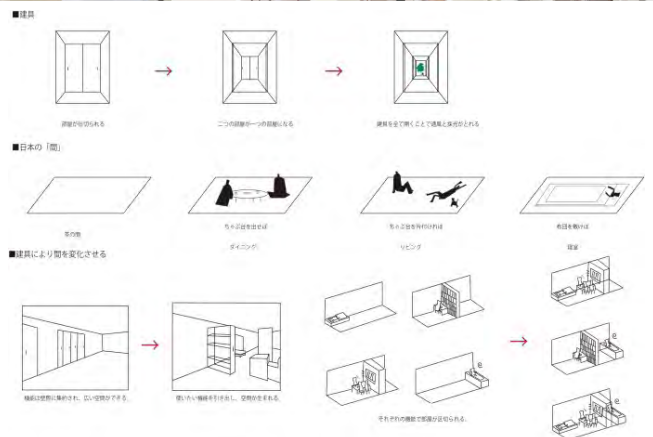
16. fitting -ひく ひろがる つながる-

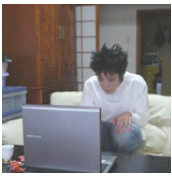
塩川 正人
shikawa masato
建築意匠研究室

日本の社会は多様性の時代に入っている。それに伴い人々のライフスタイルも多様化し、絶えず新たな状態に向けて変化し続けており、人々の住まうことの意義が大きく変化してきている。建具は日本の住まいをフレキシブルにしてきた。そこで本計画では、様々なライフスタイルに対応していくことができるように、画一化した集合住宅を計画するのではなく、時間と共に刻々と変化し、様々な状況に答える事ができる集合住宅を建具を介して提案する。



■みんなの建具
住民の人々の共有の場所。住民の人々によって解放された場所。意図に任せている人の趣味の場所。そこは自分の家が無くても気軽に立ち寄れる、みんなの憩いの場となる。



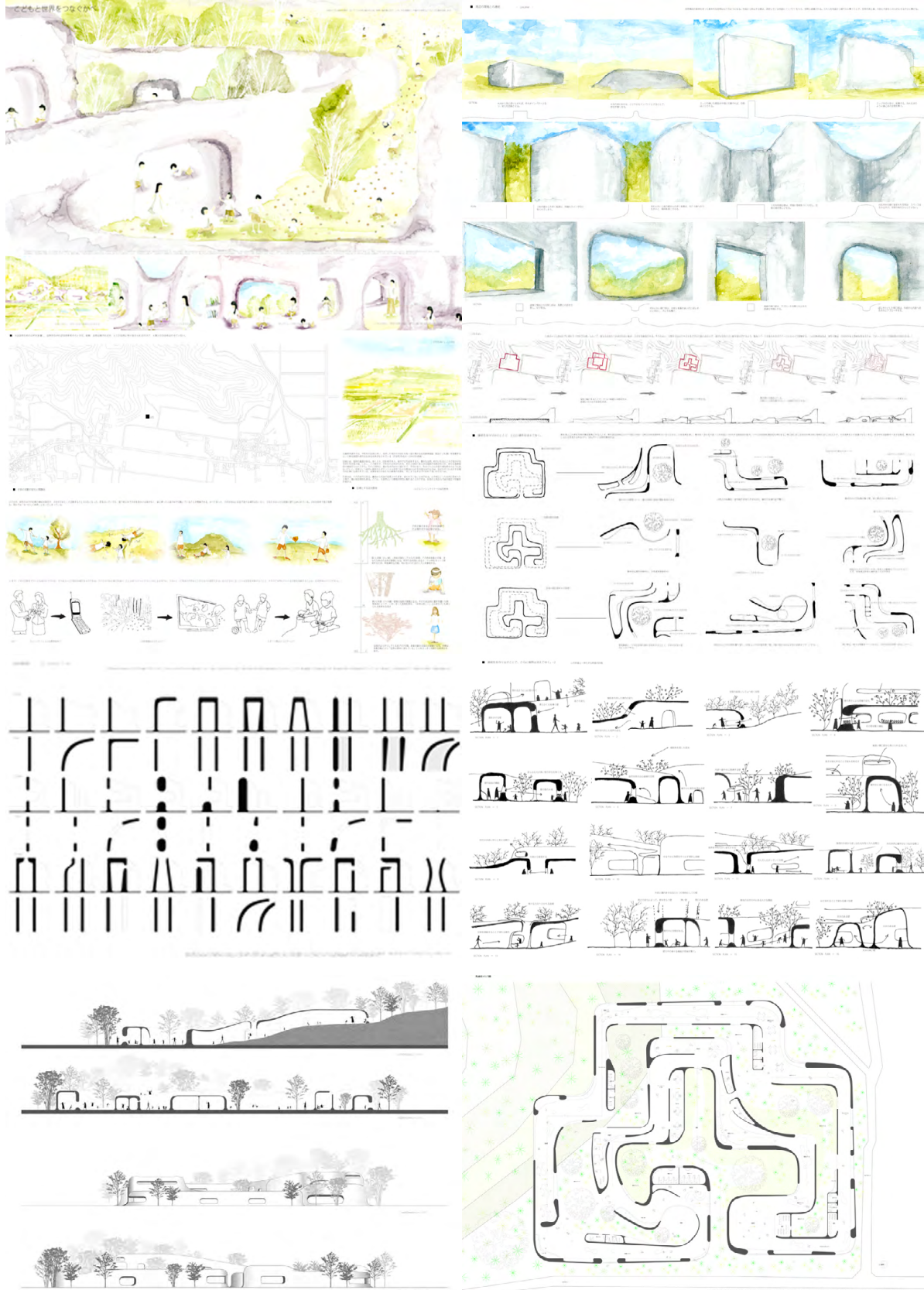


18. こどもと世界をつなぐかべ

工学会 2席

東 大典
azuma daisuke
建築意匠研究室

子供が絵本を開き、白いページの中に描かれた淡い世界に胸を膨らませながら、自由にいろいろな想像をし、行動できるような子供園を計画します。物体として、子供の安全を守る役割を果たす「壁」の中に空間を設けます。柔らかく地面に張り付く壁の中にある様々な機能が、こどもと周りの世界を「繋げる」壁となります。大自然と調和した、「カド」と「ハン」のない空間を構成することで、子供の行動を制限してしまうことを防ぎます。

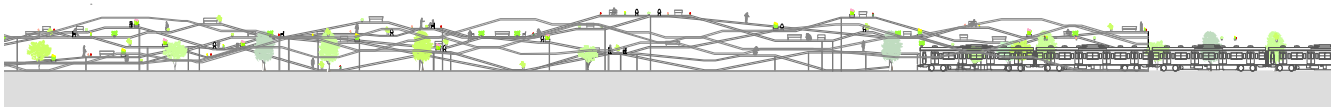
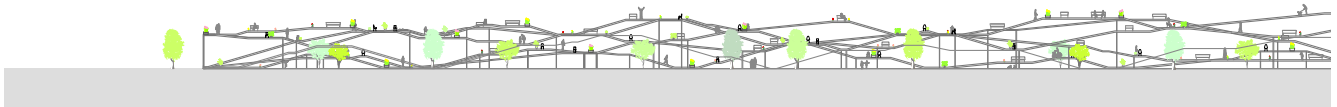
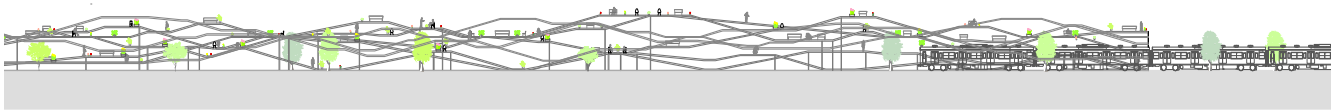
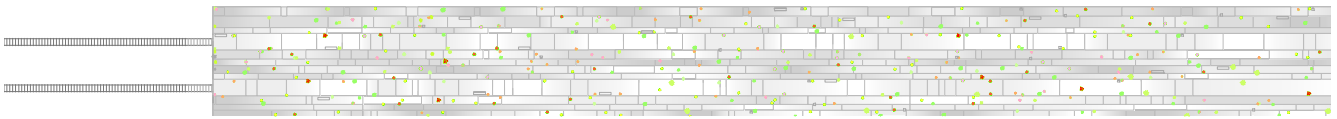
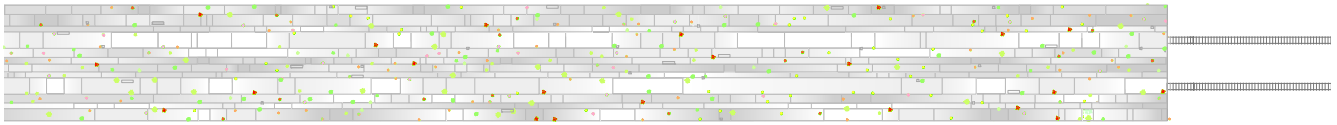
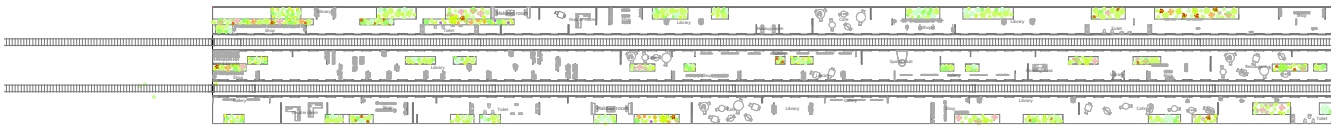
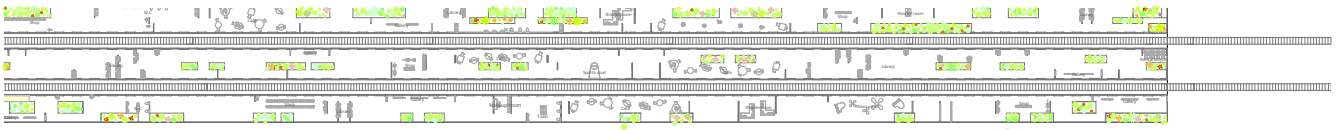
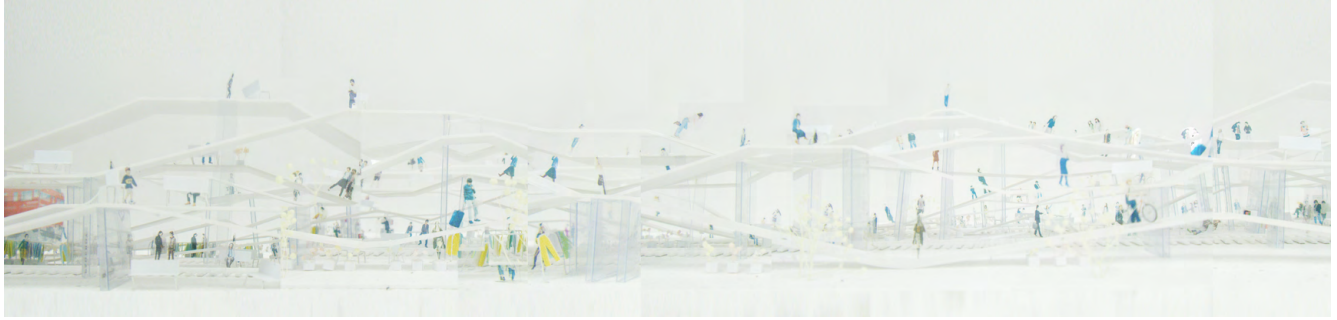




19. つながり -町へと溶け込む駅-

中尾 恭子
nakao kyoko
建築意匠研究室

本計画は、地域において、失われつつある場所性・空間性を、複合施設として再構築する提案である。子供から高齢者の幅広い年齢の人たちが楽しい時間を過ごせるような広場のような駅施設により地域の良さを掘り起こし、人と人との繋がりを再生しながら、これからの町づくりにつなげていきたいと考える。単なる駅としての機能を超えて「まちの顔となり、地域文化を担い、地域交流拠点となる駅舎」を目指していきたいと考え、駅から町全体が発展していくことを期待する。



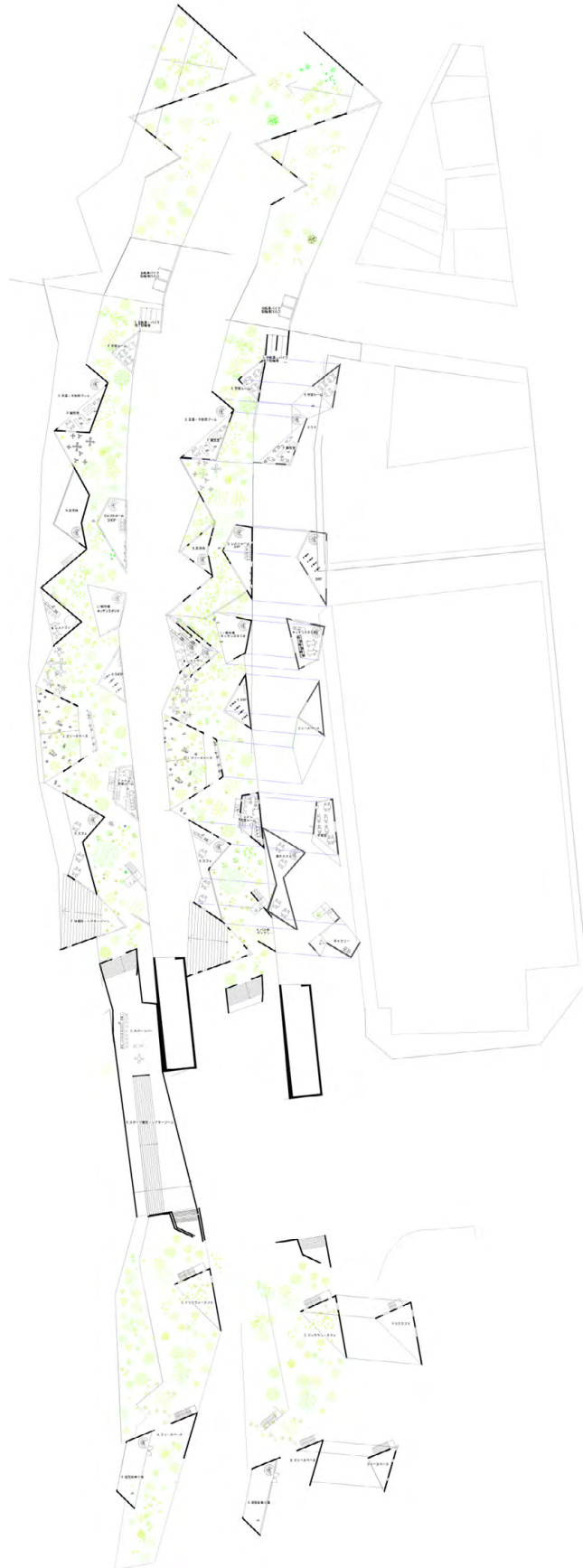


佐藤 真美
sato mami
建築意匠研究室

20. 道で繋がる人とかわ -水の都ひろしまで、川と共に生きる-

都市部は、商業、流通などの発達や、雇用の需要性の高さから人口が集中していて、利便性やネットワーク力が高いなど多数の利点がある。

だが、それと同時に近隣・人間関係が希薄で、大都市に限らず、人間関係に対する喪失感を感じる人が多い傾向にある。そのような現代の社会環境で、人々が交流・活動しやすく、川を直接感じる事が出来る複合施設を、歩道（河川敷）と川を利用して提案したいと考える。

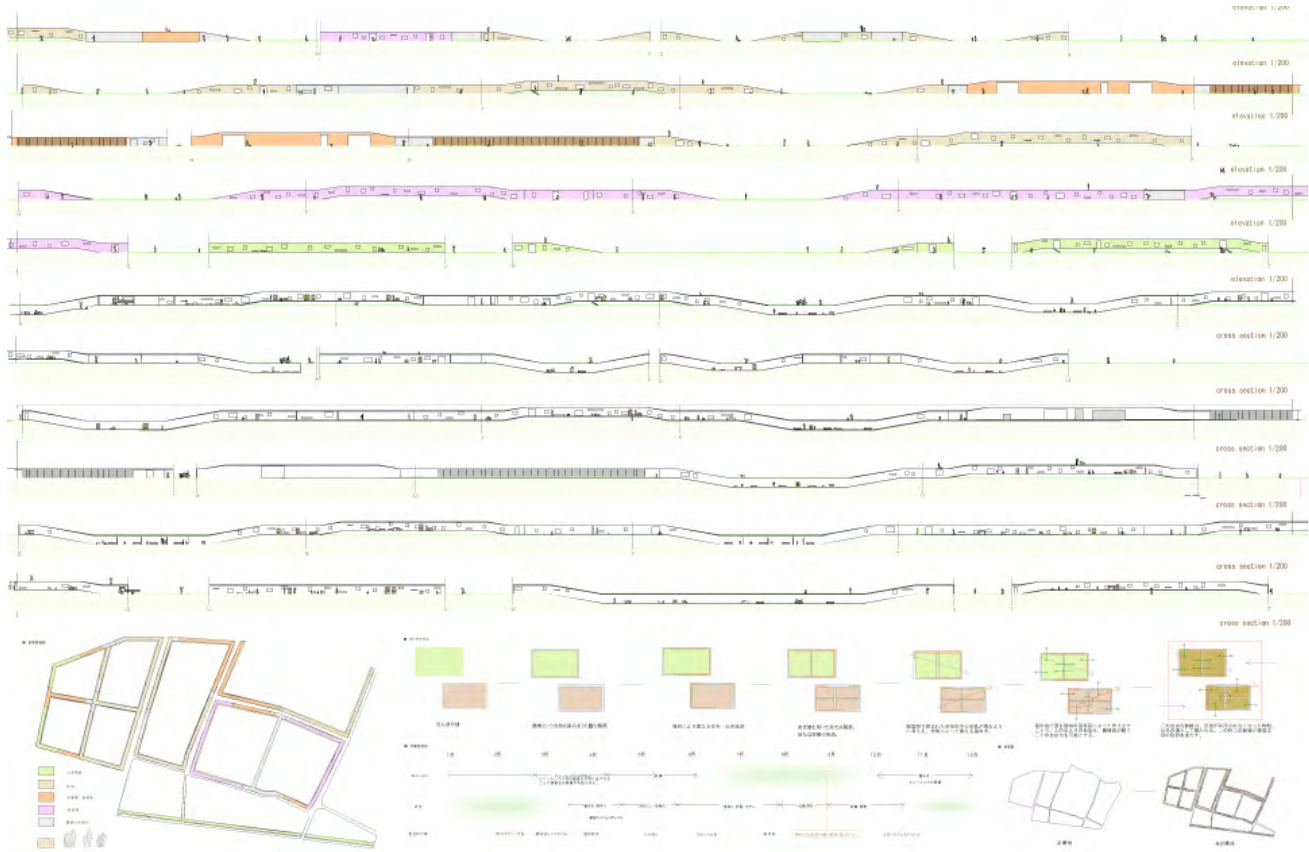




21. 緑囲ミドリカコム -21世紀の農業の風景-

石川 佳奈
ishikawa kana
建築意匠研究室

本計画は、住宅、農業研修所、公共スペース等の計画・提案である。今まで町を支えてきた田畑の風景を残しつつ建築を新たに組み合わせる事で、人々の新たな生活の営みを見つけ、なおかつ地域の人やそれ以外の人々とも関わりあうことのできる住宅及び公共スペースを提案する。田畑の周りを囲むように計画された建築は、自然溢れる田畑に囲まれた人々の生活を内面からより豊かにし、なおかつ農業や自然に対する新しい認識・関心を得ることを期待する。





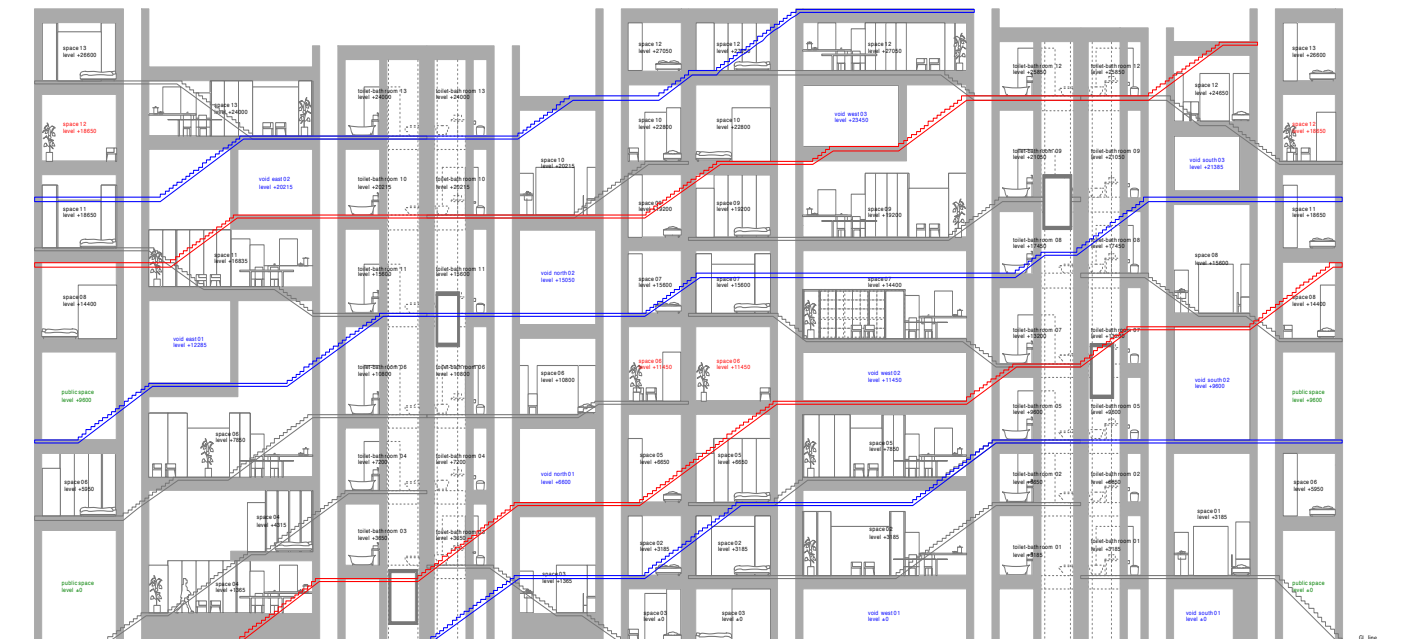


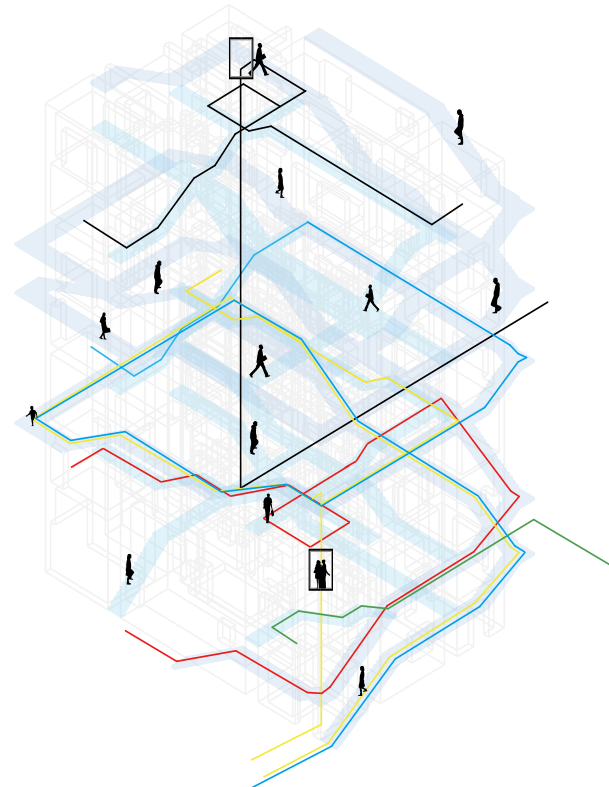
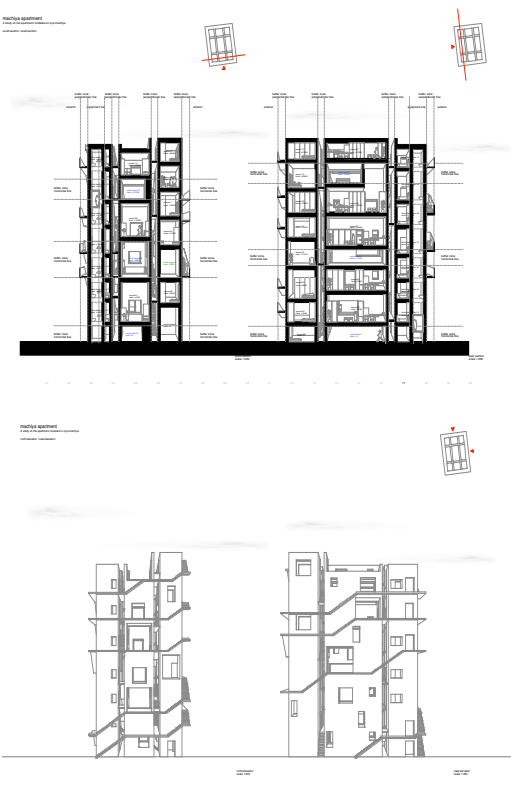
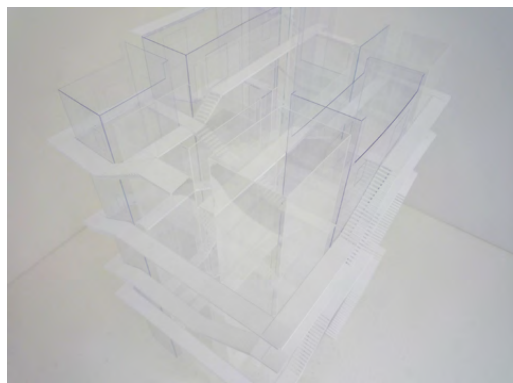
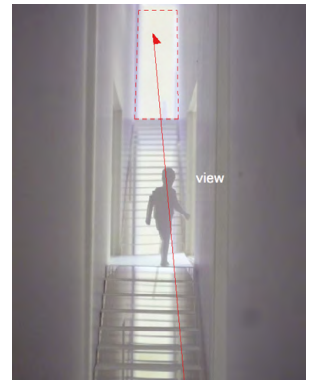
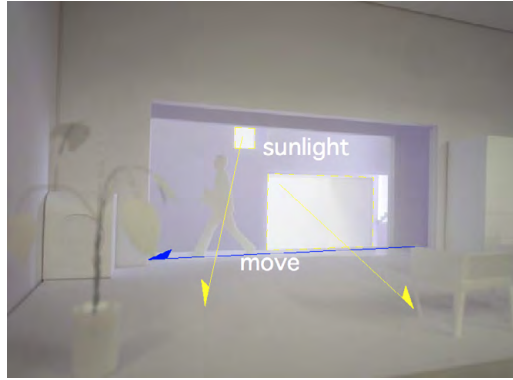
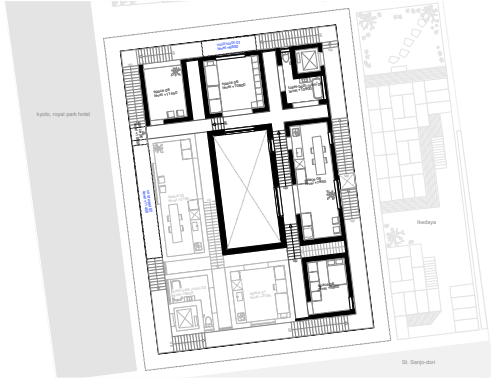
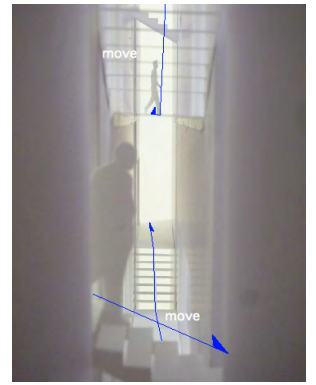
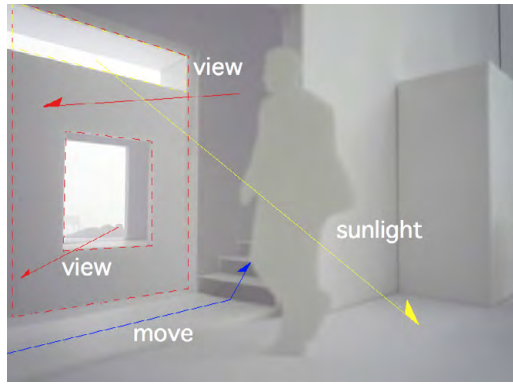
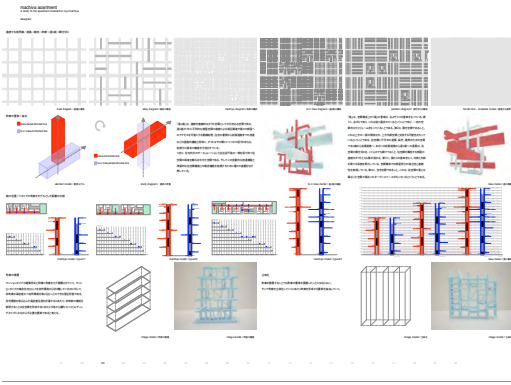
森原 直樹
mori-hara naoki






建築意匠研究室

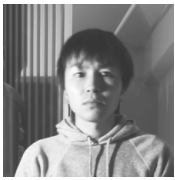
01. 町家アパートメント - 京町家をモデルとした集合住宅の考察 -

現状の都市は、経済性や機能性には配慮されているが、建築としての完結性のみが追求され都市とのつながりは薄れつつある。本計画の目的は、高密度でありながら都市環境を調和する事が可能な住居形態である京町家を考察する事である。京町家の特徴とも言える通り庭、庭に注目し、立体的な町家型集合住宅を提案する。都市の中で窮屈に存在する町家が、生活装置として生み出した空気ダクト的機能空間である通り庭、庭を垂直水平方向へ回転させることで、通り庭による縦方向の抜け、庭と開口による横への抜けへと変換し、閉鎖的な建物内部を空気ダクトでつなぎ外部へと解放する。外部環境から独立し存在する都市型住居を都市環境の中でニュートラルなダクト装置として寄与させる。京町家の構成を参照する事は住空間を形成するにあたり大地からはなれていくビルディングタイプに少なからず必要な要素であると考えられる。





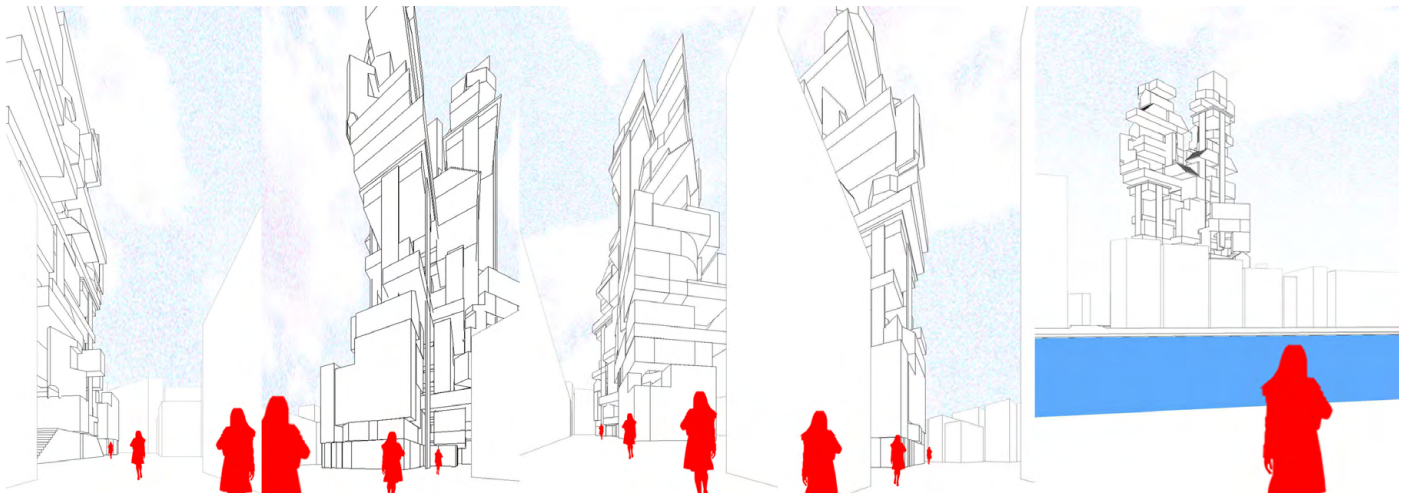
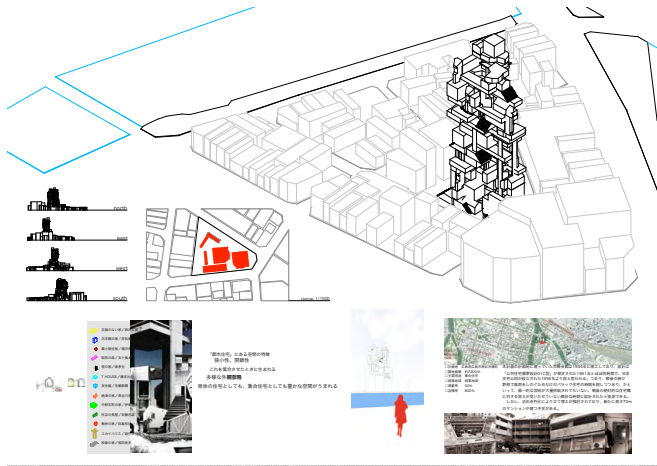
-  space 12
-  space 08
-  space 07
-  space 06
-  space 03

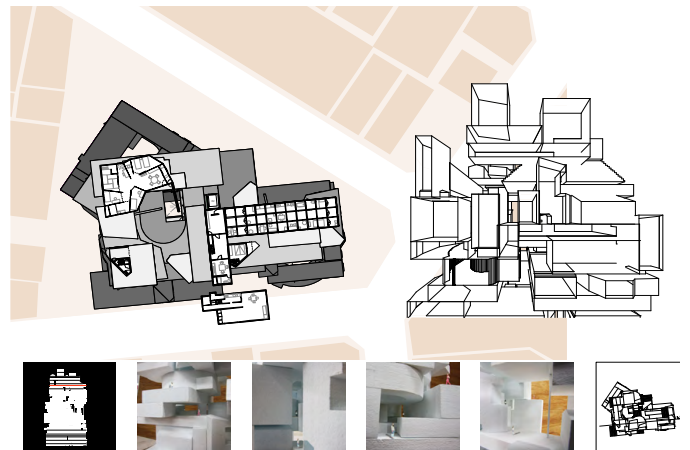
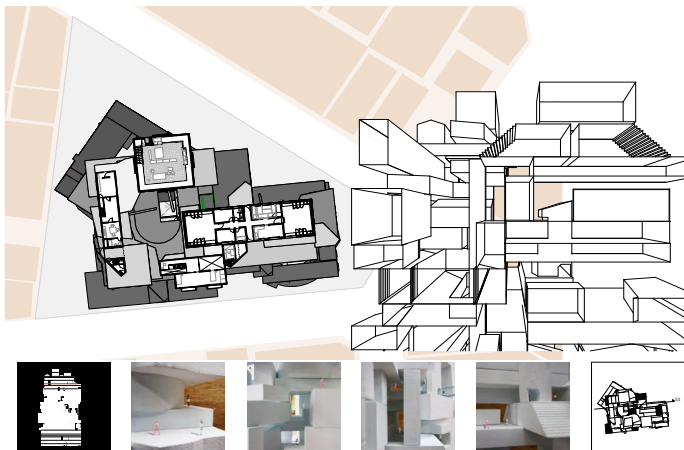
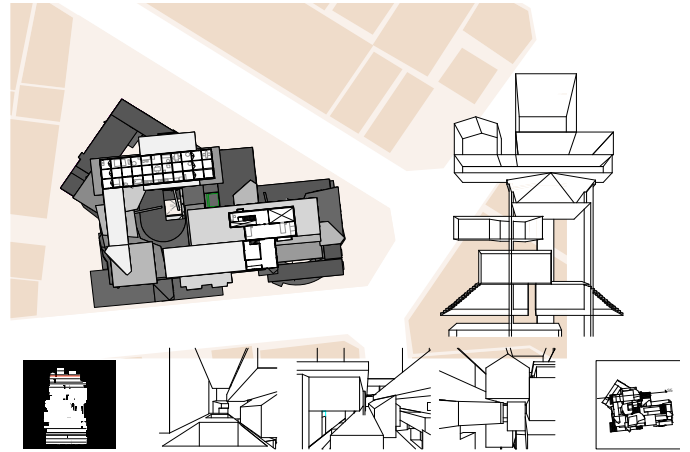
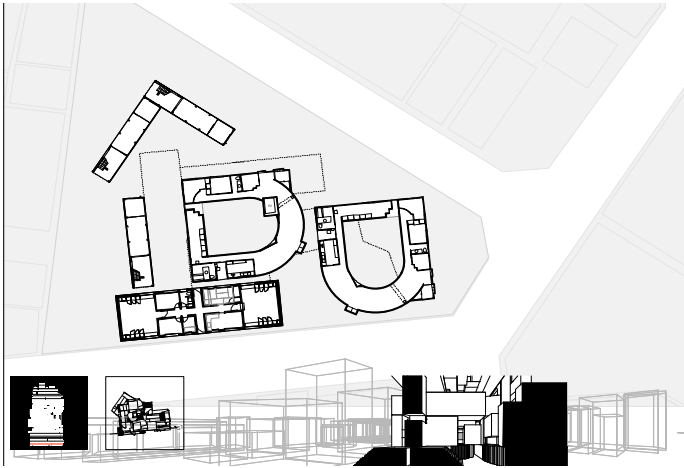
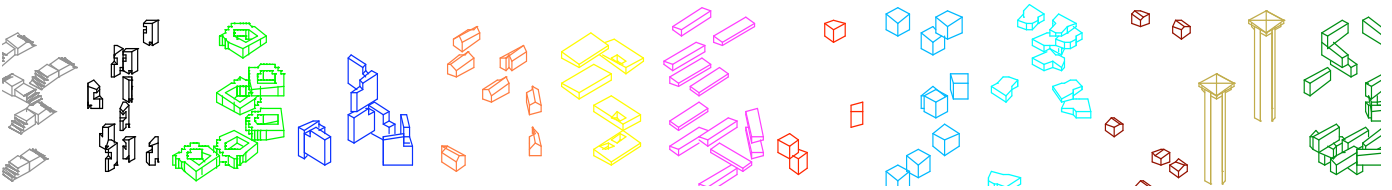
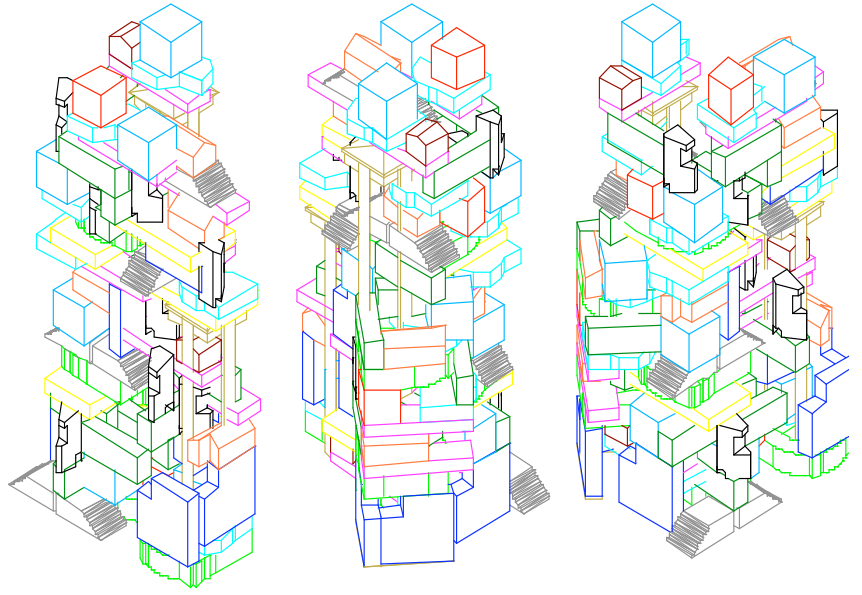


02. ジェンガ

野島 将平
nojima syouhei

建築家によって設計された都市型住宅を用い、その閉鎖性、狭小性が全体として開放性を生み出す集合住宅を計画する。モダニズムから出来上がった均質箱空間は、工業化、標準化によって受け継がれてしまったが、多様化した現代に見合う、様々な空間を持つ集合住宅を計画する。本計画では住宅どうしが積層されて出来る空間は集合住宅を単なる箱空間の積層ではなく、それぞれの部分が全体として一つの建築をつくりだす。それぞれの住宅から空間的特徴を抽出し、積層させることで、多様な外部空間を生み出す。住戸と生活と集住全体が相互関係を持ち、人の居場所を創りだす建築となることを期待する。





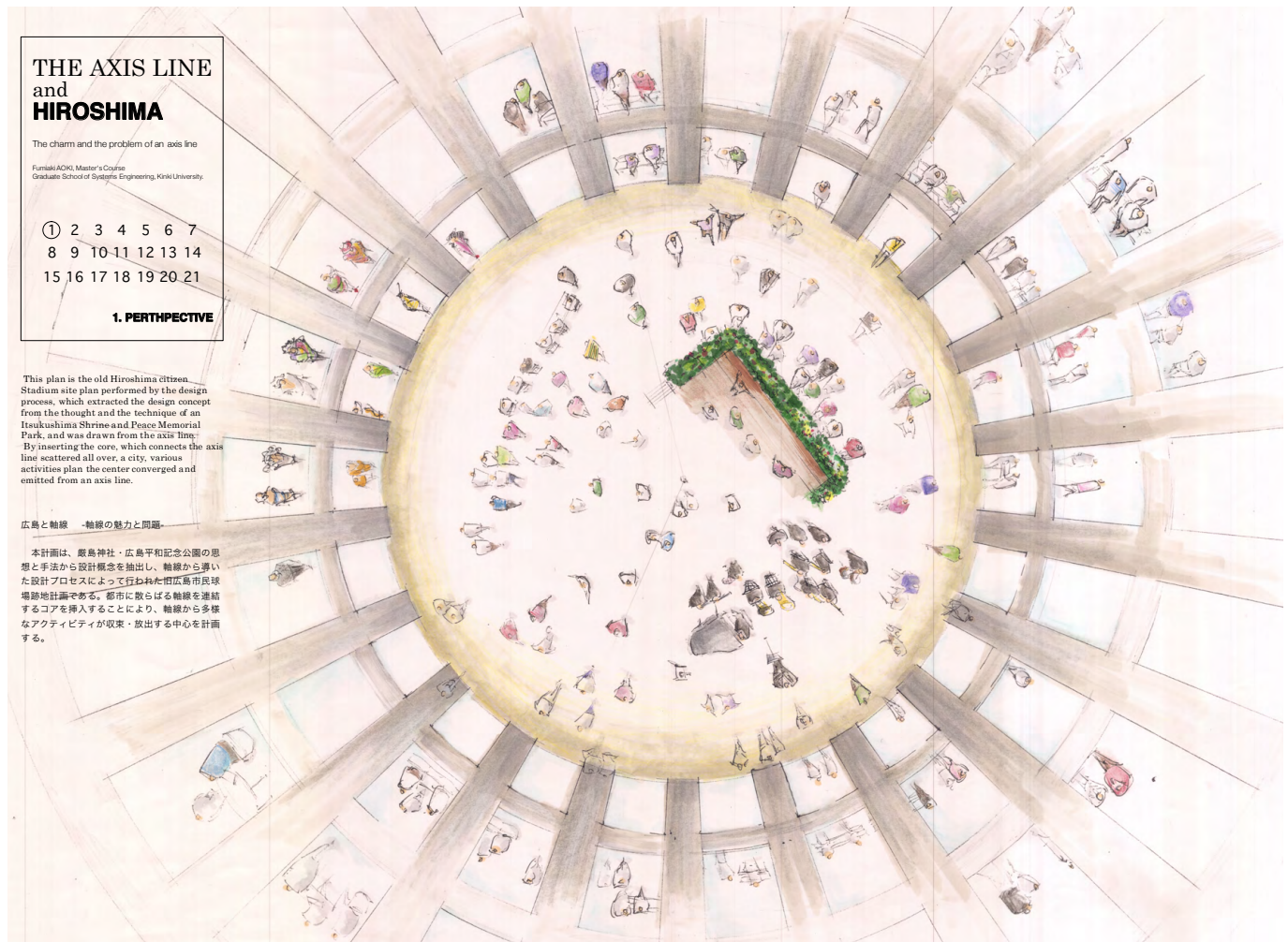


青木 史晃
aoki fumiaki

03. 広島と軸線 - 軸線の魅力と問題 -

本計画は、厳島神社・広島平和記念公園の思想と手法から設計概念を抽出し、軸線から導いた設計プロセスによって行われた旧広島市民球場跡地計画である。都市に散らばる軸線を連結するコアを挿入することにより、軸線から多様なアクティビティが収束・放出する中心を計画する。

現在の都市は、いたるところで大型建築が建設され、都市は切り貼りしたようにちぐはぐである。また、区画を形作る軸線は圧倒的なスケールに囲まれ、立ち止まることもできない。都市にはアクティビティの拠点となる中心が必要なのではないだろうか。中心とは拠り所である。そこから出発し、帰ってこられる。そんなあたたかな空間が現在の都市に求められているのではないだろうか。

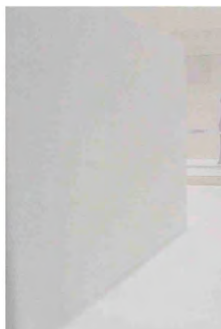
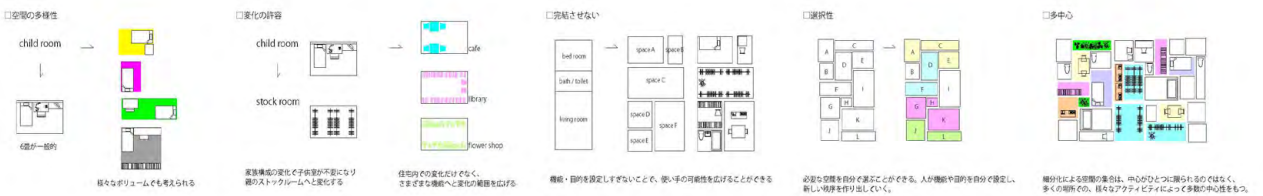


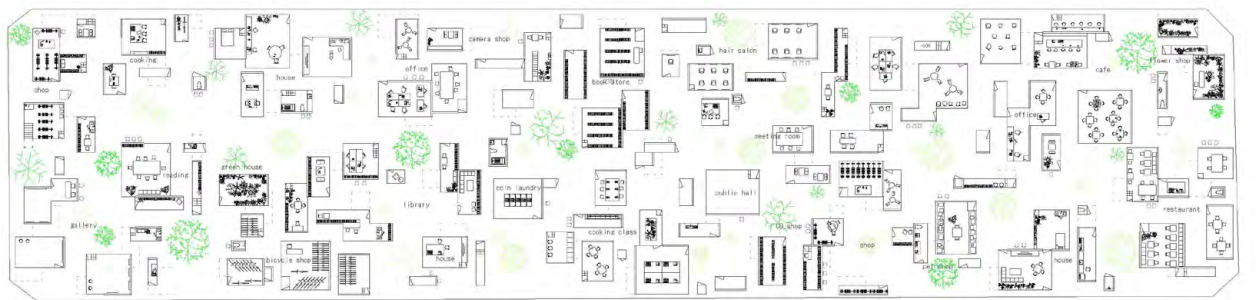
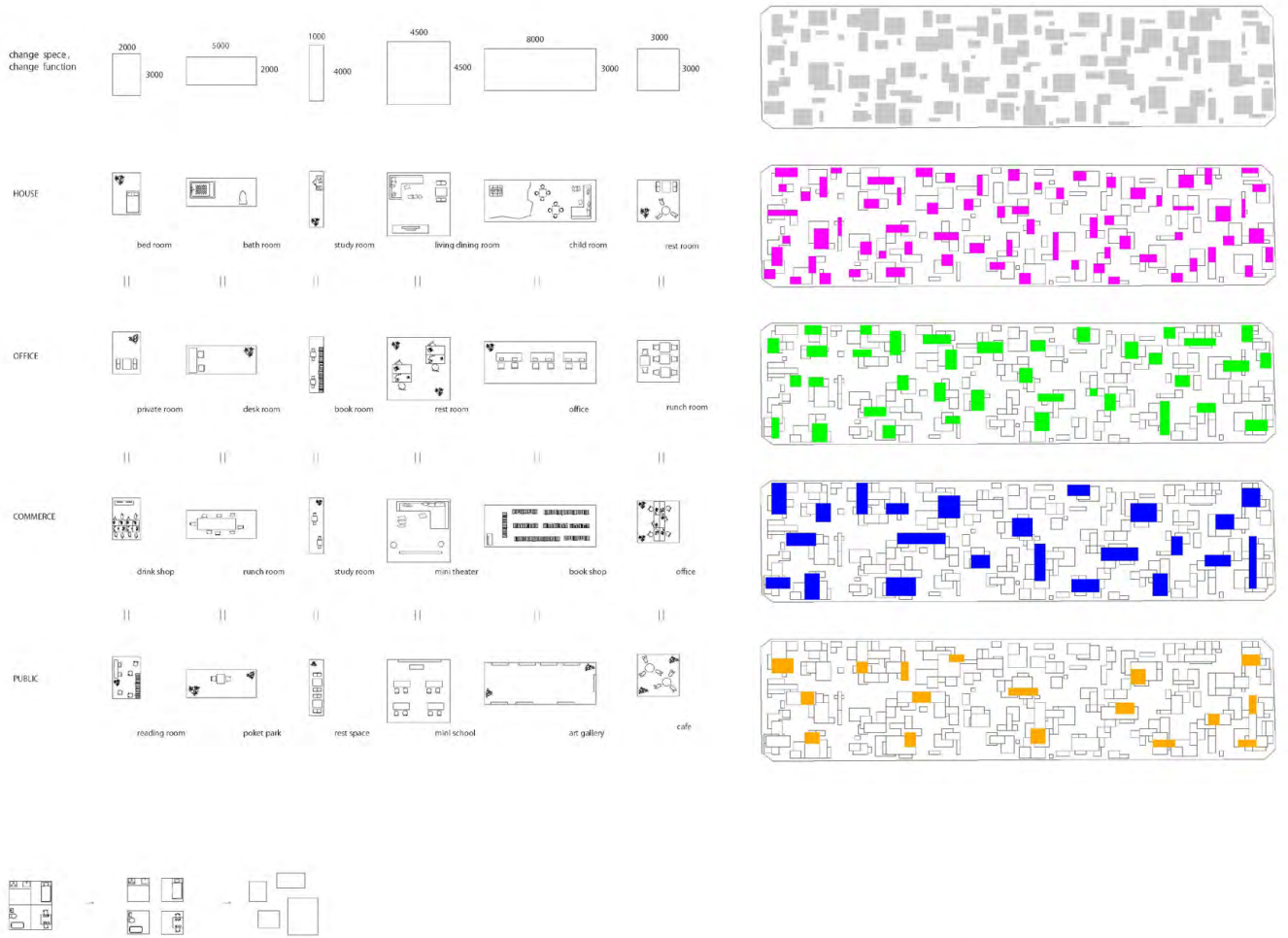


04. まちにうごめく建築 - 機能と形態の変化可能な空間設計の提案 -

豊後 亜梨紗
bungo arisa

都市は常に動いており、さまざまなことが変化しながら行き交っている。そんなまちの中では、様々な変化に対応できる建築が必要となる。たくさんの空間から自らが使い方を見いだしていける計画を行うことで、それぞれの場所で多彩な振る舞いが可能になる建築を目指す。



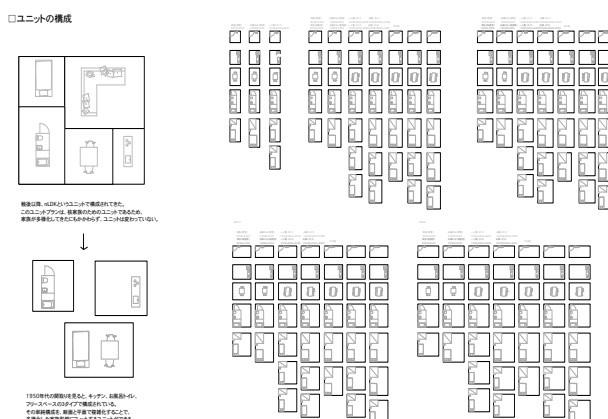
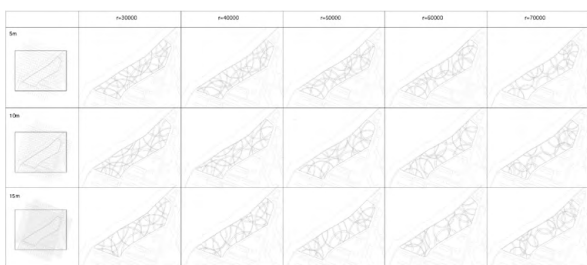
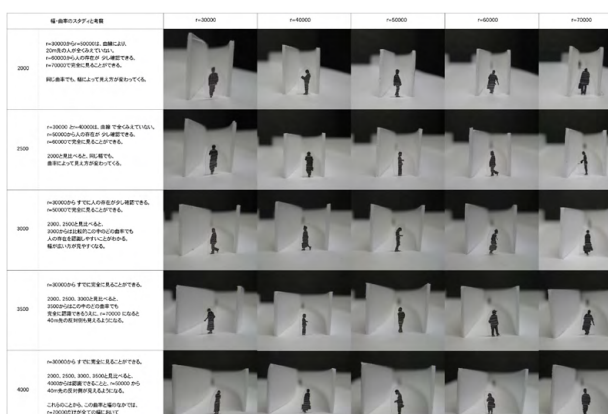
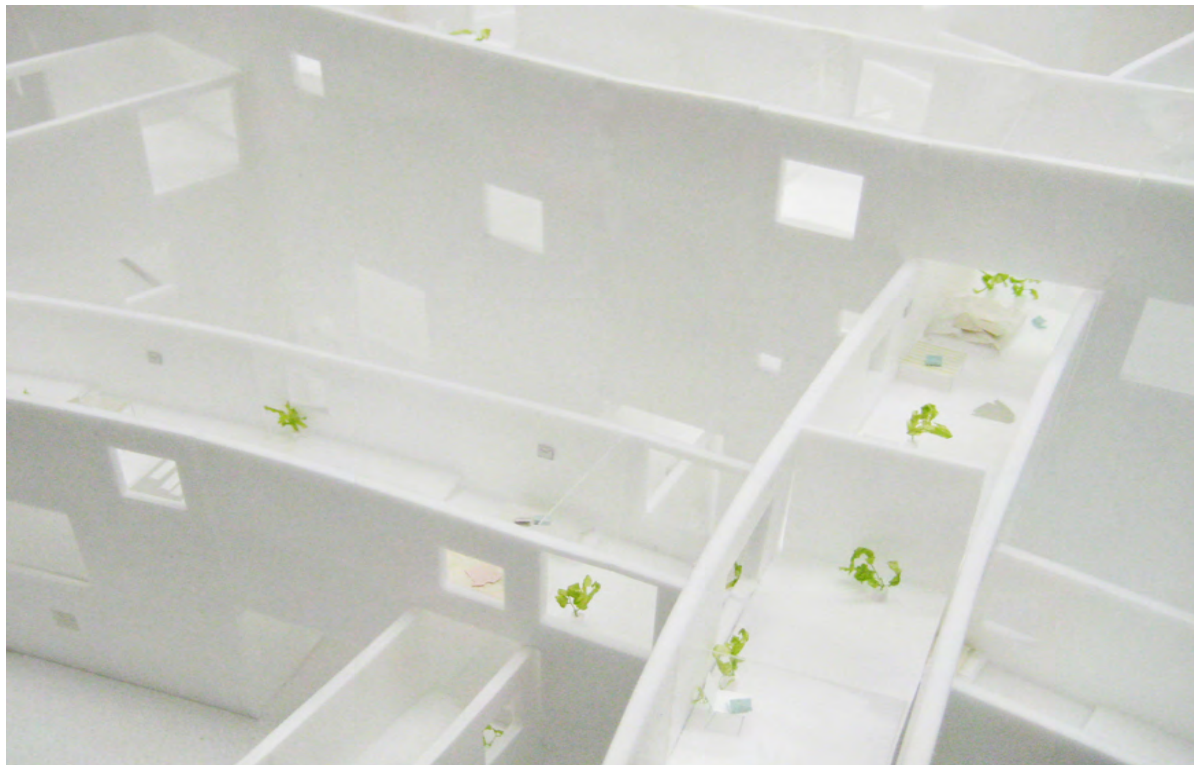


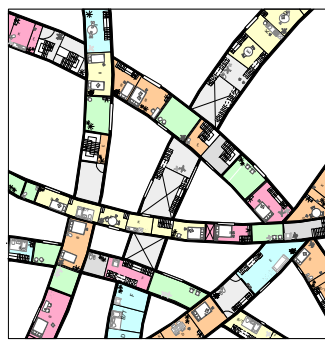
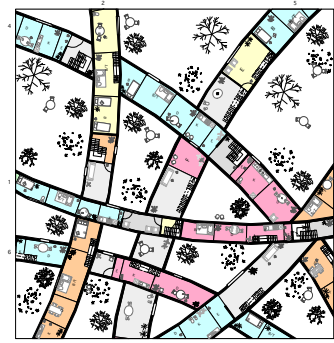
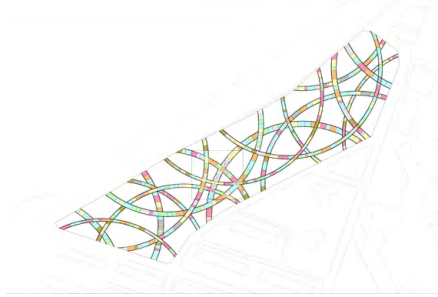
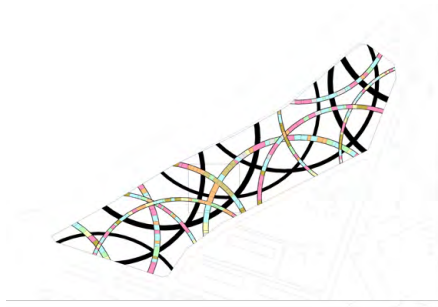
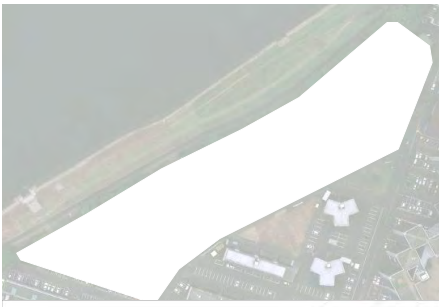


05. 移りゆく住処 ever-changing house

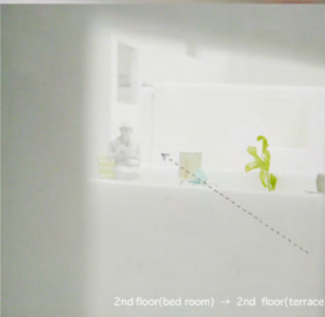
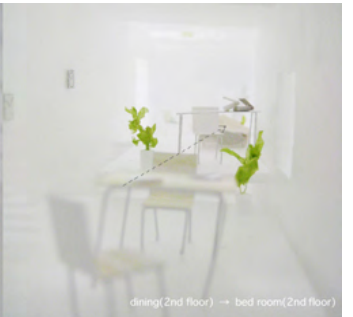
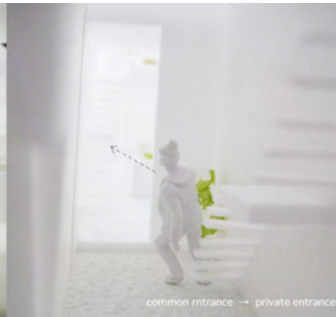
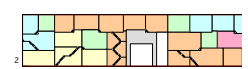
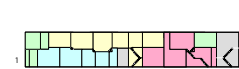
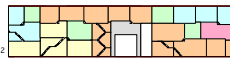
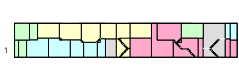
中平 祐子
nakahira yuko

本計画では、家族構成の多様化を背景として、家族構成の変化に対応した集合住宅を提案するものである。人生の移り変わりとともに、本当に必要なものだけを持って、集合住宅内を移住して居場所を見つけることで、集合住宅全体が循環していく。外部構成は内部の住人が変わること、だんだん変化していく。それは、家族構成の変化や、個人のライフスタイルの違いから生じるものであるが、個人個人の快適さを求めたからこそ全体の豊かさもあるのではないだろうか。内部が変わることで外部も変わり、それぞれの家族構成に本当の意味で「合った」集合住宅を追求したかった。これからは、広い意味での家族を対象とした幅広い住まいづくりこそが、今日求められているのではないだろうか。





- single
- couple
- parents+child(1st/2)
- parents+child(1st/2)
- others
- terrace
- common entrance
- E-entrance
- K-kitchen
- D-dining
- B/T-bath/toilet
- B-bed

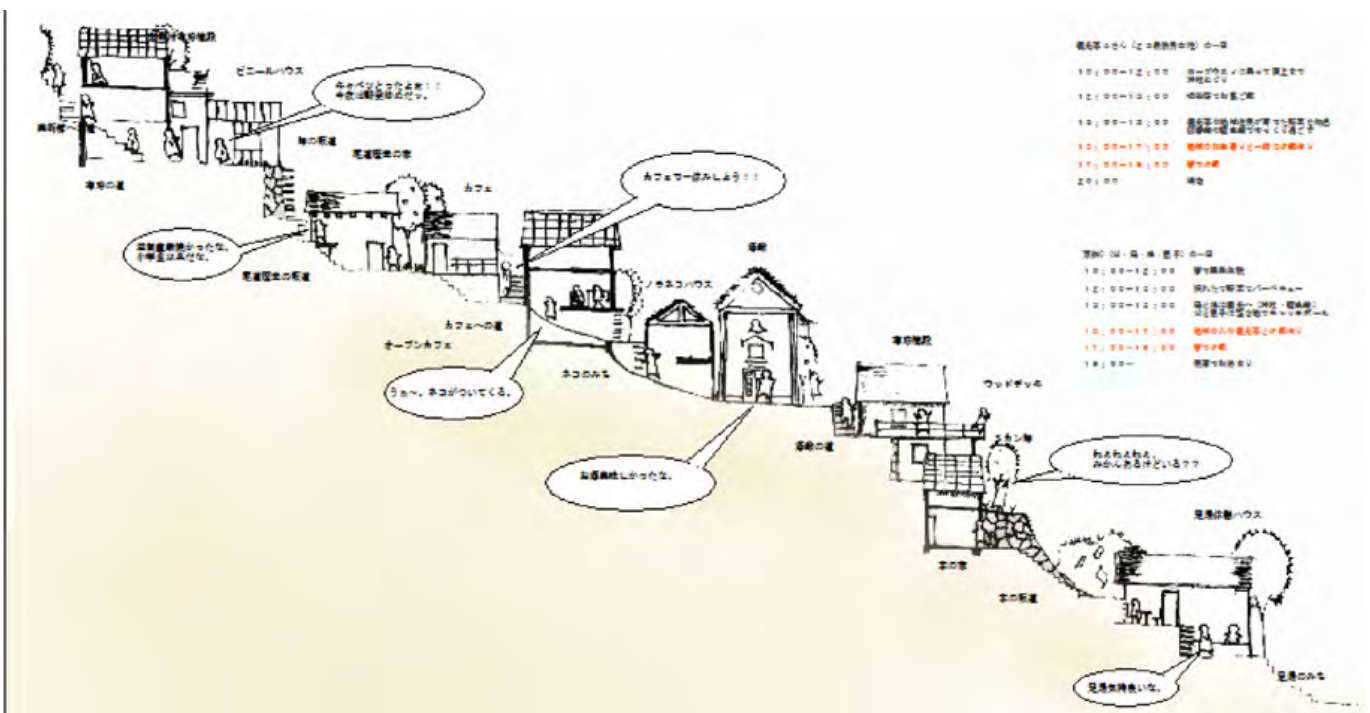






石川 佳奈
ishikawa kana
山本 真司
yamamoto shinji
佐藤 真美
sato mami

2011 年度 日本建築学会設計競技
課題 時を編む建築 タジマ奨励賞





渡辺 昇吾
watanabe syougo
ジェイミー・ダック
jamie duck
奥田 麻美
okuda asami
井用 美雪
iyomi miyuki

2011年度 日本建築学会設計競技
課題 時を編む建築 支部入選

Re-Cycle 再・編



Re - Cycle
再・編

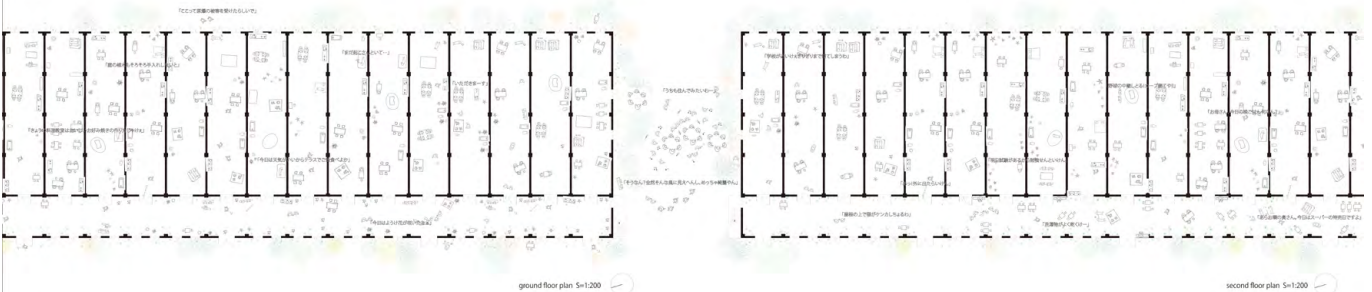
使われていない建物は時が止まっている。
広島は原子爆撃の被害という意味で永遠に時を凝らしてゆく都市である。
しかし、高度な経済成長を伴った時代では、多様な対する多様な低下し、都市の中心部の建物は放棄され、このままでは解体される運命である。
本計画は、時が止まった建物のファードを直し、現在を信託と成っている内部を集合住宅にも内部で復元するものである。
イギリスなどヨーロッパでは歴史的な建築物の外観を維持するための規制があり、歴史を引き継ぎながらも内部では現代的な生活を送るための改修が行われている。
そして「住まう」という行為は、絶対的な安心・安全が確保された場所で行われるものであり、平和の象徴となる行為だと考えた。
こうして、歴史的な住宅を踏み込み、より平和を表現する新たな時を編み出し、時代が移り変わっても住む人が変わっても、建物は変わらずに競争の記憶を引き継いでゆく。
高度な経済成長を伴った時代では、多様な対する多様な低下し、都市の中心部の建物は放棄され、このままでは解体される運命である。



□広島
広島市広島市南区出汐 広島陸軍病院支所
広島市は原子爆撃が投下された歴史を踏まえ、自らを平和記念都市として、
平和の樹立と市民参加の発展を求めると同時に、
広島陸軍病院支所は原子爆撃によって壊滅したが、戦後復興は進められ、
現在は就寝施設として3棟が未使用の状態で保存されている。

□広島陸軍病院支所
1905年(明治38年)4月に陸軍病院広島分所として開設された。
1945年(昭和20年)8月6日広島に投下された原子爆撃により広島市は壊滅状態に陥ったが、
中心地から約2.7km離れたいた建物は支所は外壁の厚みが60cm厚かったこともあって
損失や倒壊は免れた。
現在は日本建築学会が倉庫1~4号棟として市によって被爆建築物に指定されている。

□戦時中の現代
近代化に伴い建物も更新も変化した。
□海外の事例
イギリスでは建築物の歴史的な外観を守るため、保護協会などが規制を設定し、改修する場合は協会に許可を申請するのが通例である。
高度な経済成長を伴った時代では、多様な対する多様な低下し、都市の中心部の建物は放棄され、このままでは解体される運命である。





渡辺 昇吾
watanabe syougo
チョルマン・ヨルゴス
georgios tsorman

2011年度 日本建築学会近畿支部
グリーンコンクリート研究センター主催 設計競技
課題 コンクリートと木のコラボレーションによる
持続可能な住まいと地球住環境の設計
佳作

ふところのイエ

Idea development A:
水平線は2つの垂線に直交し、交点を固定されている。

Idea development B:
2つの柱で支えられた「橋」は真下の通行を許可して、急傾斜で多くの小道が交わる底地の環境に適合する。

Idea development C:
柱はより多くの軽い構造物を保持するための自然に重くなる。木製材料の地を支えるために重コンクリート材料を柱に使用する。

Idea development D:
一層の発展によってフレーム形体となり、内部空間が生まれる。

South Aerial Perspective View

Diagram A:
Red: コンクリートフレーム
Green: 木構造の「橋」

Diagram B:
Red: コンクリートフレームに覆われた木構造（一、二階の床）
Green: 木構造フレームの「橋」

Diagram C:
Red: 木構造フレームの「柱」
Green: 「畳マット」の使用

Diagram D:
Red: 窓には障子を使用
Green: 正面はガラス張りで、木製ルーバーで採光を調整する

Image 1:
打ち出しコンクリート構造には木材板のテクスチャを有している。コンクリートの型に使用された木板は清潔に扱い、建物の外壁被膜材として再度使用される。

Image 2:
全体の木造建築は集成材(グルーラム)の梁によって構成される。その材料は大スパンと耐久性に強い構造梁を支える小片や断片に使用され、持続可能な概念をより有効にする。

窓は伝統的な日本建築の障子に基づいてデザインされている。

Perspective Section AA

Section AA

Perspective Section BB

Section BB

01. bathroom/toilet
02. bedroom 1
03. bedroom 2

01. hearth
02. kitchen
03. chimney
04. living room
05. study room
06. bathroom/toilet



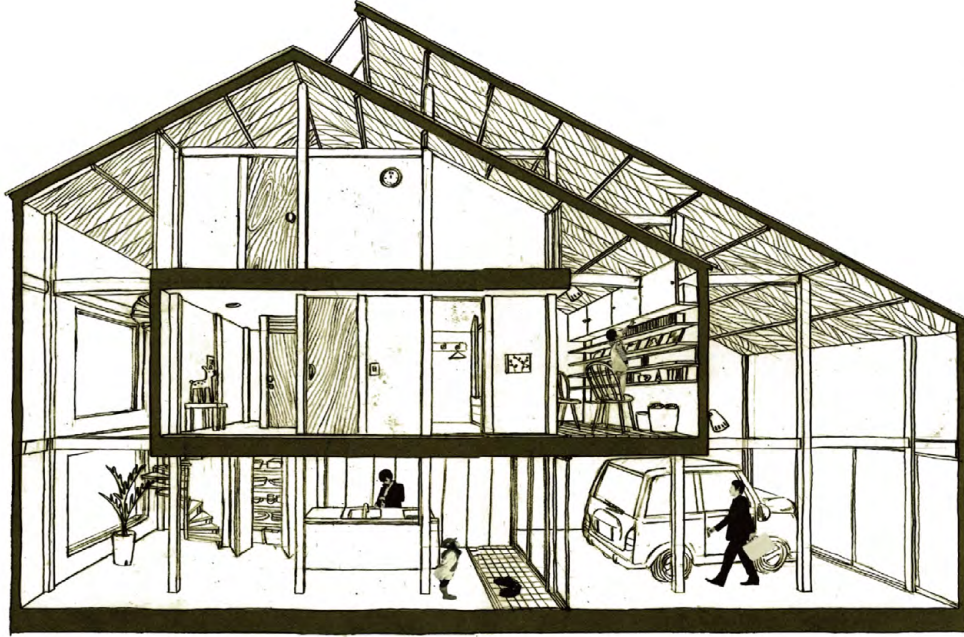
渡辺 正吾
watanabe syougo
中村 遼太
nakamura ryouta

2011 年度 JACS 住宅設計コンペ
課題 環境住宅「光と風」 佳作

螺旋と奥行きの家

螺旋と奥行きの家

そもそも光や風と私たちの間に距離は無かったはずである。



本計画は螺旋によって生じる奥行きによって、自然からむしる距離を全うする計画である。
住宅部を螺旋状にすることで螺旋の中心部に位置する個室部は外の要因の影響をうけにくい、外周の空間は壁一枚隔てて外気に触れることができるが、中心部の空間は壁に囲まれ、螺旋の中心部の奥行きによって外気からは離れた距離にいる。(Image 1)



image 1

螺旋の中心部には多量の壁面に囲まれた空間ができる。中心部になるほど外周を離れ外気は多量に届く、壁に囲まれた空間になる。常に断熱の外気層に面する空間は外気の影響は少なく、室内で公共性に富む。(Image 2)



image 2

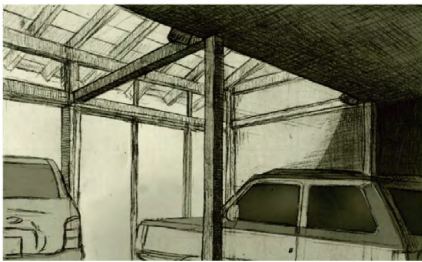
螺旋は内側に向かって無限にフラタルな図形を繰り返す。一つのボリュームの形状を保ったまま奥行きを伸ばして行くことでできるという特徴をもっている。(Image 3)螺旋内側で存在する現在の単一的なものはなくなり、この奥行きによってもっともプログラムに配慮することができる。



image 3

現在私たちはなんとなく環境に対する信頼感として生活している。カーシェアリングや公共交通機関の上昇の状況は、私たちの存在を脅かす。環境住宅の価値は「安全」という時代となった。高度情報によって多くの人たちは環境に対する信頼感を失い、それらの存在を重視しなくなってしまったように思える。

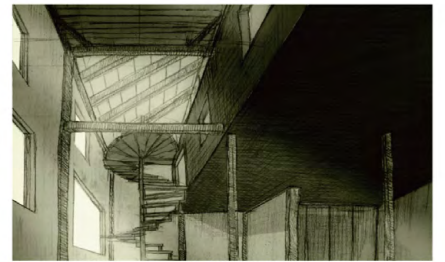
しかし、私たちが求める住宅の在り方は原始の昔から本質的に変化しない。空間性、空間性、環境技術時代によって変わっていくが、光や風の存在が住むに身する影響は古来より本質である。「風」という単語は風速、湿度、方位、方位よりも大切なものがある。そこに在り続けるものの表現として使われることも多い。私は光や風が螺旋状の空間の存在をデザインすることを考えるが、遠くでいっその点を懸念したときに、先人たちが残した最もシンプルで自然の家が在るのではと感じた。



■駐車場へ差し込む光



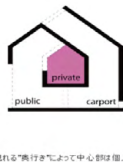
■1階南面は駐車場の関係



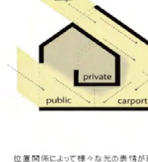
■1階のバリアクスペースから2階プライベートスペースへ続く階段



螺旋による空間のグラデーション



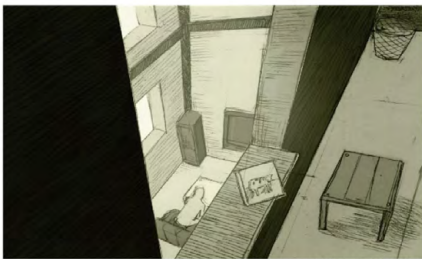
螺旋によって現れる「奥行き」によって中心部は個人性の強い空間になる



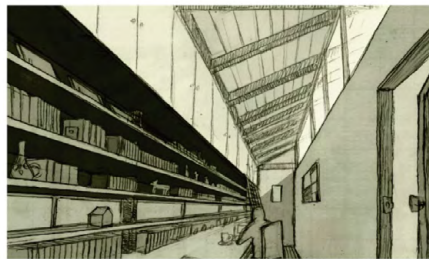
位置関係によって様々な表情が現れる



壁面が変化する個室部を上部に巻き込むことで風の通る空間ができる



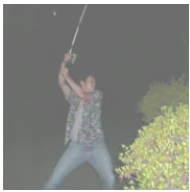
■階段口から1階の天井を望む



■向側の居室からの書斎に接する窓。書斎から駐車場を眺望する窓



■螺旋の外周部の窓と内周部の窓が関係し、広い空間にコントラストが生まれる



東 大典
azuma daisuke

第一回 リノベーション学生アイデアコンペ
課題「あのヒーローに捧げる、日本のリノベーション住宅」
一般来場者投票3位 中国・四国部会推薦作
全国最終審査12選入選



第38回 五三会建築設計競技
課題「21世紀の家族像から考える新しい住宅」
佳作

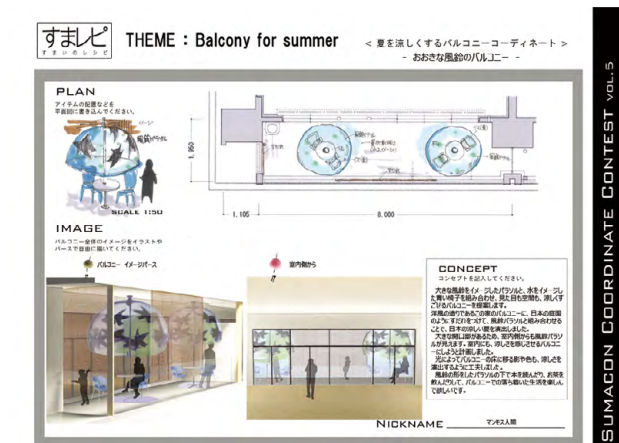


第10回
朝日リビングマンションエクステリアデザインコンテスト
フリースタイル部門 佳作



第5回 すまコンコーディネイトコンテスト
課題「夏を涼しくするバルコニーコーディネイト」
入選

インテリア産業協会
キッチン空間アイデアコンテスト 2011 佳作







2011年度 近畿大学工学部建築学科作品集

平成24年(2012年)6月 第一刷

発行 近畿大学工学部建築学科

〒739-2116 広島県東広島市高屋うめの辺1

tel 082-434-7000 fax 082-434-7011

<http://www.archi.hiro.kindai.ac.jp/>

編集 近畿大学工学部建築学科

印刷・製本 三原プリント株式会社

本書の全部または一部の複写・複製等を禁じます。

Copyright (C) Kinki University, All Rights Reserved, 2012